授業科目	一年次	研究課題	<u></u> [[トレ1]		担当教員	今北 雄太				
	+//	WI 7 G B N R								
対象年次・学期 	1年・集	年・集中			多・選択区分 	選択	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	60時間		
授業目的	与えられ	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。								
到達目標	調べ、ほ	明らかに	こした内容をレポー	−ト等と	こしてまとめあけ	げる 。				
テキスト・ 参考図書等	必要に加	必要に応じて資料等配布する								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>			
	試験		0							
評価方法・ 評価基準	レポート		60	, <u></u> º	· ᄴᇷᄼ	の出口 + 炒入が-	☆海ナッ			
可順坐平	小テスト 提出物		0	レホー	-トや提出物寺(の状況を総合的に	.評価する。			
	をの他		20							
履修上の 留意事項			20							
	回		履修主題			履修	内容			
履修内容	1	基礎相	 既論		アスリハの概要・考え方・用語説明・機能解剖①					
	2	基礎相	既論		アスリハの概要・考え方・用語説明・機能解剖②					
	3	基礎相	既論	,	リスク管理について					
	4	運動療	療法の基礎知識と	用語	筋力エクササイズについて①					
	5	運動獲	療法の基礎知識と	用語	筋力エクササイズについて②					
	6	運動振	療法の基礎知識と	用語	可動域訓練について					
	7	4	療法の基礎知識と		神経一筋協調性エクササイズ					
	8	5	療法の基礎知識と		全身持久力とアスリハ					
	9	6	意法の基礎知識と		身体組成とアスリハ					
	10	再発隊 ①	方止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	とダイナミックア	ライメント ①			
	11	2	方止と外傷予防の		スポーツ動作	とダイナミックア	ライメント ②			
	12	3	方止と外傷予防の		受傷機転とダ	゙イナミックアライ	メント			
	13	4	方止と外傷予防の		動作・姿勢の	観察と評価				
	14	ル①	奈法と装具・イン		物理療法					
	15	物理療法と装具・インソー			リハビリテー	ションに用いる装	 具、歩行と足	底挿板		
	16	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	アスリハ①				
	17	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	アスリハ②				
	18	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とア	′スリハ①				
	19	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とア	′スリハ②				
	20	再発防	方止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	とダイナミックア	ライメント ①			

21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント ②
22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント ③
23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント ①
24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント ②
25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
27	物理療法と装具・インソー ル	物理療法
28	物理療法と装具・インソー ル	リハビリテーションに用いる装具
29	物理療法と装具・インソー ル	歩行と足底挿板
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	一年次研究課題[[トレ1]	担当教員	千保大聖	!	トレーニング指導者
1文未行口	十八河九杯超(ドレリ)	実務経験	有:■	無:□	ドレーング指令目
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	一年次研究	課題 (トレ1)		担当教員	今北 雄太				
対象年次・学期	1年・集中		必作	多・選択区分	選択	単位数			
授業形態				授業回数	15回	時間数	60時間		
授業目的	与えられた	課題や問題を学問的	 こ深く ^ま	考え、調べ、明	らかにする。				
到達目標	調べ、明ら	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。							
テキスト・参考図書等	必要に応じ	て資料等配布する							
	評価方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>			
	試験	0							
評価方法・ 評価基準	レポート 小テスト	60	ı + °_	- しゃ担山物学	の状況を総合的に	気/声士 マ			
и пише	提出物	20	レホー	下心挺山初守(の小爪で総合別に	計11119 つ∘			
	その他	20							
履修上の 留意事項									
履修主題・	回	履修主題			履修	内容			
履修内容	1 アい	スリートの 健康管理 て	につ	健康管理体制、メディカルチェック					
	ア	<u>-</u> スリートの内科的障 策	害と	急性障害の種類とその対策					
	3 ア対	スリートの内科的障 策	害と	慢性障害の種類とその対策					
	4 対			基礎知識、部位別にみる外傷・障害					
	1 5 1	スレティックリハビリ ョンとトレーニング i		アスリハの概説と留意点					
	6 シ	スレティックリハビリ ョンとトレーニング i	十画	アスリハの進め方と組み立て					
		スリートの栄養摂取 活	と 食 	5大栄養素の概要					
	8 =	ンディショニングの引	€法	ストレッチングの種類と方法					
		ンディショニングの引		テーピングの	目的と効果、注意	事項			
	1 10 1	スリートの栄養摂取 活	と 良 	栄養障害と対	†処法、サプリメン	٢			
	11 特	殊環境下での対応		水分補給、暑	熱、寒冷対策				
		殊環境下での対応		高地、時差、	感染症対策				
	13 □	ンディショニングの引	≦法	アイシングの	効果、アイスパック	ケ作り			
	14 □	ンディショニングの引	€法	スポーツマッ	サージの目的と効	果、手技の種	類		
	15 ⊐	ンディショニングの手	≦法	集中力のトレ					
		動療法の基礎知識と		全身持久力と	-				
		動療法の基礎知識と		全身持久力と	-				
		動療法の基礎知識と		身体組成とア					
		動療法の基礎知識と		身体組成とア					
		発防止と外傷予防の			とダイナミックア				
	21 再	発防止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	とダイナミックア	ライメント②			

	1	
22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント ①
24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント ②
25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
27	物理療法と装具・インソール	物理療法
28	物理療法と装具・インソー ル	リハビリテーションに用いる装具
29	物理療法と装具・インソー ル	歩行と足底挿板
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	一年次研究課題II(トレ1)	担当教員	千保大聖	<u>!</u>	トレーニング指導者
技業科 日	一年从忻九誄起順トレリ	実務経験	有 : ■	無:□	トレーニング拍导有
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	一年次福	研究課是	頭Ⅲ(トレ1)		担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・集	1年・集中 必何			多・選択区分	選択	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	60時間	
授業目的	与えられ	た課題	や問題を学問的	に深く ^ま	考え、調べ、明	らかにする。	,		
到達目標	調べ、日	明らかに	した内容をレポー	ート等と	こしてまとめあけ	げる。			
テキスト・ 参考図書等	 必要にル	必要に応じて資料等配布する							
	評価	方法	評価割合(%)			評価	i基準		
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポート		60			○北田 <i>+ W</i> △	hh,a학자(프고크		
TIM **	小テスト 提出物		20	レホー	−トや提出物等の	の状况を総合	的に評価する。		
	その他		20						
履修上の 留意事項									
履修主題・	回		履修主題			Ā	覆修内容		
履修内容	1	基礎:	重心と床反力		バイオメカニクスを学ぶ上で必要な基礎力学について				
	2	基礎:	関節モーメント		各種運動時、人体の中でどのようなことが起きているのか				
	3	基礎:	跳躍動作		跳躍動作に必要な力学について				
	4	基礎:	步行①		最も基本と言える動作、歩行について				
	5	基礎:	步行②		良い歩行とは何なのか				
	6	応用:	走動作		走る動作について				
	7		跳動作		跳ぶ動作について				
	8	下肢の (1)	つスポーツ外傷・	障害	大腿ハムストリングス肉ばなれ / HQ比				
	9	下肢 <i>(</i> 2)	スポーツ外傷・	障害	大腿部打撲 / 骨化性筋炎 / 股関節脱臼 (脱臼骨折)				
	10	下肢(3)	スポーツ外傷・	障害	膝PCL損傷				
	11	下肢の (4)	スポーツ外傷・	障害	膝MCL損傷				
	12	下肢 <i>(</i> 5))スポーツ外傷・	障害	膝半月板損傷	<u> </u>			
	13	(1)	スポーツ外傷・		肩関節前方服 鼻)	ガロ、コンタク	トでの外傷・障害	害 (顔面・目・	
	14	上肢(2)	スポーツ外傷・	障害			怎、TFCC損傷		
	15				腰椎椎間板へ イカルチェッ		外科的メディカル	レチェック / メデ 	
	16	運動療	景法の基礎知識と	用語	全身持久力と	アスリハ①			
	17 運動療法の基礎知識と用語			用語	全身持久力と	アスリハ②			
	18	運動療	景法の基礎知識と	用語	身体組成とア	' スリハ①			
	19	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とア	? スリハ②			
	20	再発防	方止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	とダイナミック	クアライメント ①		
	21	再発防	方止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	とダイナミック	クアライメント ②		

	1	
22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント ①
24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント ②
25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
27	物理療法と装具・インソール	物理療法
28	物理療法と装具・インソー ル	リハビリテーションに用いる装具
29	物理療法と装具・インソー ル	歩行と足底挿板
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

运 器约日	一年为亚克细岛III(1 1 1)	担当教員	千保大聖	1	トレーニング指導者
授業科目	一年次研究課題Ⅲ(トレ1)	実務経験	有 : ■	無:□	トレーニング拍导有
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

						1				
授業科目	リコンラ	ディショ	ニングl(トレ1)		担当教員	 小林 大介 				
対象年次・学期	1年・通	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30回	時間数	60時間		
授業目的	因により	2低下し 繋がる諸	におけるアスレテ た身体機能や体, を要因や、その防.	力・体	調を望ましい状	:態に 戻 すことは重	重要な業務です	⁻ 。身体レベルの		
到達目標	アスレラ 述べるご		トレーナーとして きる。	のリコ	ンディショニン	グの重要性を捉え	、理想的な競	競技復帰について		
テキスト ・ 参考図書等	公認AT	テキスト	ヽ④(リコンディシ	ノョニン	·グ)					
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準	隼			
	試験		60							
評価方法・	レポート		10	抽≠≐	ポ酷結里60%↓	して、受講姿勢、	出度家 珊	解度の応じて不		
評価基準	小テスト	`	10			して、文碑安好、 スト、レポートな				
	提出物		10							
	その他 基本は	プリント	10 ベースで板書。 I	甲解度:	こ応じて小ティ	トやレポートなど	の実施も行う。	。トレーナーの基		
履修上の 留意事項	礎基盤(わからな	の <mark>科目</mark> で ない点は	です。最初は、初 何かしらの方法で ので、少しずつ理	めて聞 で質問し	く言葉や用語、 たもらえると嬉	難しい表現と感	じることも多い	いと思いますが、		
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	ガイタ	ブス・リコンディ が総論	ハショ	講義内容・AT・リコンディショニングについて					
	2	代表的			エクササイズ、テーピング、インソール、ブレース					
	3	代表的	り手法		物理療法の定義と意義、アプローチ方法					
	4	代表的	り手法		徒手的アプローチ(マッサージ。筋膜リリース、カイロプラク ティック等)					
	5	評価と	ニプログラミング		評価の観点と	結果の活用				
	6	評価と	ニプログラミング		プログラミングの実際①					
	7	評価と	ニプログラミング		プログラミングの実際②					
	8	組織側	多復と治癒過程の	知識	骨、靭帯、筋、半月板、神経					
	9	と対応			筋力について					
	10	と対応			関節可動性・	柔軟性について				
	11	と対応			バランス機能	について				
	12	と対応			全身持久力に	こついて				
	13	と対応			姿勢やアライ	メントについて				
	14	機能・身体的問題への評価と対応			体重管理につ	いて				
	15)、前期試験につい		前期まとめ・	試験対策				
	16		別の状態に 応 じた ショニング	リコ	頭頚部					
	17	部位別 ンディ	別の状態に応じた ショニング		胸部					
	18	ンディ	別の状態に応じた ショニング		腰部					
	19	一部位別	別の状態に応じた	リコ	肩・肘・前腕	ē				

	ンディショニング 	
20	部位別の状態に応 じたリコ ンディショニング	手関節・手
21	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	骨盤対・股関節
22	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	大腿部
23	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	膝関節
24	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	下腿部
25	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	足関節・足部
26	パラスポーツのリコンディシ ョニング	障がいのあるプレーヤーへの対応
27	総合演習	上肢(グループワーク)
28	総合演習	体幹(グループワーク)
29	総合演習	下肢(グループワーク)
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	リコンディショニング l (トレ1)	担当教員	小林大介			
1XX17 LI	72777722771777	実務経験	有∶■	無:□		
対象年次・学期	1年・通年	担当教員				
授業形態		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				

授業科目	スポーソ	ソと救急	対応(トレ1)		担当教員	小林 大介					
対象年次・学期	1年・通	通年		必但	と 選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	30回	時間数	60時間			
授業目的	_		現場において安全に けることを目的。		も事 項であるた	め、救急対応の意	義と特性を理	 解し実践的な知			
到達目標		現場で起こり得る様々な事象に対して、冷静に判断し、最良の救急対応を迅速かつ的確に施せる基本 的な知識と実践能力を身につける。									
テキスト・ 参考図書等	公認ATテキスト ⑤ (救急対応)										
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		60								
評価方法・	レポート	<u> </u>	10			して、受講姿勢、					
評価基準	小テスト	<u> </u>	10	定期に	と実施する小テ.	スト、レポートなと	も踏まえ、糸	総合的に評価す			
	提出物		10	% °							
	その他 公認AT	テキスト	10 、第5巻の内容を/	ベースと	 1.て、プリント	、を配布しながら進	めていきます	この分野は現			
履修上の 留意事項	場でも特					に対応できるよう					
H/8/3-37	よう。						h 宏				
履修主題・ 履修内容	쁘				 授業内容説明		7台				
復修內台	1	オリエ	ニンテーション 		救急対応の実						
	2	救急対	対応とは		救急対応の意	「義と目的・考え方	等				
	3	救急体	体制の構築		救急体制構築	EにおけるJSPO-A1	の役割、対	応計画の作成			
	4	救急時	寺の対応計画		対応計画の作成と活用、留意点						
	5	外傷	・障害の評価と手	順	初期評価について①						
	6	外傷	・障害の評価と手	順	初期評価について②、体位・体温管理						
	7	外傷	・障害の評価と手	順	搬送法						
	8	外傷時	寺の救急対応		創傷・出血						
	9	外傷時	寺の救急対応		打撲・捻挫・肉離れ、RICE処置						
	10	外傷時	寺の救急対応		骨折・脱臼						
	11	外傷時	寺の救急対応		脳震盪						
	12	外傷時	寺の救急対応		頭部・頚部・	脊椎①					
	13	外傷時	寺の救急対応		頭部・頚部・	脊椎②					
	14	外傷時	寺の救急対応		特殊な外傷(角	伤痙攣、熱傷、日 燥	 尭け、 凍傷 、	眼、歯等)			
	15	内科的	り疾患の救急対応	<u>,</u>	心停止						
	16	内科的	り疾患の救急対応	<u>,</u>	熱中症						
	17	内科的	 り疾患の救急対応	<u>,</u>	ショック、低	 体温等					
	18	競技別際	別にみた救急体制	の実	陸上競技						
	19	競技別 際	川にみた救急体制		ラグビー						
	20	競技別 際	別にみた救急体制	の実	サッカー						
	21	競技別際	別にみた救急体制	の実	野球						

22	競技別にみた救急体制の実 際	ウエイトトレーニング
23	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
24	まとめ	
25	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
26	まとめ	
27	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
28	まとめ	
29	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
30	まとめ	

授業科目	スポーツと救急対応(トレ1)	担当教員	小林大介			
JZXIII	NO. A CANDINAMO (LD L)	実務 経験	有:■	無:□		
対象年次・学期	1年・通年	担当教員				
授業形態		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				

授業科目	測定と記	泙価(トし	~1)		担当教員	木田 貴英	木田 貴英			
対象年次・学期	AT、M	T、PH1	年	必何	修・選択区分		単位数			
授業形態	自己紹介	介、講郭			授業回数	15回	時間数			
授業目的			対象者の両方の立 測定技術及び自:			/指導者による測定 - -。	と評価の目的	・意義及び役		
到達目標	測定 と記	泙価に必)要な知識・実技	能力を	修得し、測定と	:評価結果について	的確な解釈を	論ずることがで		
テキスト・ 参考図書等	①公認	AT専門	科目テキスト6(検	査・源	則定と評価)					
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験		60							
評価方法・	レポート		0			出物、その他(受詞	講姿勢 、受講	態度等) 総合的		
評価基準	小テスト	`	0	. – –	面します。 - 積極的に発言	した場合は高評価を	を与えます。			
	提出物		10	1010	付けるようこれら		2 → 7 & 9 °			
尼收上 の	その他	±+. 7 -×	30							
履修上の 留意事項		講義中はなるべく簡潔に話をするので、よく聞きましょう。 質問に対しては、失敗を恐れずに積極的に発言しましょう。								
	回		履修主題			履修内	容			
履修主題・ 履修内容	1	ョン	3介、オリエンテ ⁻)目的、意義およ	自己紹介、オリエンテーション						
	2	形態σ	評価		四肢長、筋委縮の計測の目的、意義、方法、留意点					
	3	姿勢·	アライメント ①		姿勢の評価基	姿勢の評価基準・指導、スポーツ活動と姿勢				
	4	姿勢·	アライメント ②		姿勢の評価基	準・指導、スポー	ツ活動と姿勢	l,		
	5	関節ロ	丁動域テスト ①		関節可動性を	ストの目的、意義	、方法、留意	点		
	6	関節ロ	丁動域テスト②		関節可動性を	ストの目的、意義	、方法、留意	点		
	7		トネステスト・関 生・動揺性テスト	節	筋タイトネス 法、留意点	・関節弛緩性・動	揺性テストの	目的、意義、方		
	8)徒手筋力検査 (MMTの目的、	意義、方法、留意	点点			
	9)徒手筋力検査(MMTの目的、	意義、方法、留意	点点			
	10	上肢の MMT))徒手筋力検査(MMTの目的、	意義、方法、留意	点			
	11	筋パワ	1—		筋パワー測定	の目的、意義、方	法、留意点			
	12	敏捷性	ŧ		敏捷性測定の	目的、意義、方法	、留意点			
	13	全身持	持久力		全身持久力測	定の目的、意義、	方法、留意。	Ä		
	14	バラン	ス機能		バランス機能	測定の目的、意義	、方法、留意	点		
	15	総復習	3 3		総復習					

授業科目	測定と評価(トレ1)	担当教員	木田貴英			
		実務 経験	有:■ 無	! :□		
対象年次・学期	AT、MT、PH1年	担当教員				
授業形態	自己紹介、講義	実務 経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当教員				
		実務経験				

授業科目	スノー 7 通1〕	ボード・	スキー実習に共		担当教員	小笠原 鷹介				
対象年次・学期	1年・集	€中		必何	多・選択区分	選択	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	60時間		
授業目的			ボードにおける、 ボード 検定受験 (得と向上を目指す。 指す。)			
到達目標	冬山にあ		怪我の予防、ゲロ	_{ァンデ} ¬	マナー及びリス?	クマネジメントを理	解し、指導す	省 としての資質を		
テキスト・ 参考図書等	必要に原	必要に応じて資料等配布する。								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・ 評価基準	レポート		10	レポー	ト・提出物等	の状況を総合的に記	平価する			
11 四坐十	小テスト	<u> </u>	0	その化	その他は受講姿勢等で評価する					
	その他		10 80							
履修上の 留意事項		修という		自己管	理、時間管理を	・徹底して行う事。				
履修主題・	回		履修主題			履修内	容			
履修内容	1	事前記	知会		目的、注意事	耳頂伝達				
	2	1日目	午後レッスン開始	<u>'</u>	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ					
	3	1日目	ミーティング		1日目学んだる	日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する				
	4	1日目	ナイター練習		1日目に学ん力	1日目に学んだことを復習する。				
	5	2日目	午前レッスン開始	À	1日目より難り	易度の高い事を学ぶ	, ,			
	6	2日目	午後レッスン開始	À	1日目より難易度の高い事を学ぶ					
	7	2日目	ミーティング		2日目学んだる	ことを各班で話し合	い、日誌に			
	8	2日目	ナイター練習		2日目に学んだ	だことを復習する。				
	9	3日目	午前レッスン開始	<u>'</u>	2日目より難り	易度の高い事を学ぶ	Ň			
	10	3日目	午後レッスン開始	<u>'</u>	2日目より難り	易度の高い事を学ぶ	Ň			
	11	3日目	ミーティング		3日目学んだる	ことを各班で話し合	い、日誌に	記入する		
	12	3日目ナイター練習			3日目に学んか					
	13	4日目	午前レッスン開始	Ė	各班に分かれ	、検定へ向けてレ	ッスンをする			
	14	4日目	検定		今まで学んだ	ことを踏まえて検気	三に臨む			
	15	4日目	ミーティング		4日目学んだ。	ことを各班で話し合	い、日誌に	記入する		

授業科目	スノーボード・スキー実習に共	担当教員	小笠原鷹介	
3238112	通1〕	実務 経験	有:□ 無:■	
対象年次・学期	1年・集中	担当教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務経験		

授業科目	トレーラ PH1)	総合	ま習I(MT1・		担当教員	菊地 健太					
対象年次・学期	1年・集	中		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	30回	時間数	60時間			
授業目的	トレーオ	⊦─現場	記帯同し、必要	に応じ	て検査・測定と	評価が出来ること	を目的とする	00			
到達目標	トレーカ	⊢一現場	まで検査・測定と	評価を	実施し、選手に	2説明出来ることを	目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	公認 A ⁻	公認 A T テキスト ⑤									
		評価方法 評価割合(%) 評価基準									
	試験		0	-							
評価方法・ 評価基準	レポート		0			書」の提出をもって	、活動状況	を確認、評価を			
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	提出物		0	判定。	ける。						
	その他		100	1							
履修上の 留意事項	特になし	特になし。									
履修主題・	回		履修主題			履修内	容				
履修内容	1	トレー	ナー評価実習	1		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		査測定の方法、			
	2	トレー	ナー評価実習	2	アスレティッ・	クトレーナーに必要 の観察と解析につい	な評価、検	査測定の方法、			
	3	トレー	ナー評価実習	3	アスレティッ・	クトレーナーに必要 の観察と解析につい	な評価、検	査測定の方法、			
	4	トレー	ナー評価実習	4		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		査測定の方法、			
	5	トレー	ナー評価実習	5	スポーツ動作	クトレーナーに必要 の観察と解析につい	ハて。				
	6	トレー	ナー評価実習	6		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		査測定の方法、			
	7	トレー	ナー評価実習	7	スポーツ動作	クトレーナーに必要 の観察と解析につい	ハて。				
	8	トレー	ナー評価実習	8		クトレーナーに <mark>必</mark> 要 の観察と解析につい		査測定の方法、			
	9	トレー	ナー評価実習	9		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		査測定の方法、			
	10	トレー	ナー評価実習	10	スポーツ動作	クトレーナーに必要 の観察と解析につい	ハて。				
	11	トレー	ナー評価実習	11		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		査測定の方法、			
	12	トレー	ナー評価実習	アフレティックトレーナーに必要な証価 検査測定の							
	13	トレー	ナー評価実習	13		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		<u>・</u> 直測定の方法、			
	14	トレー	ナー評価実習	14	アスレティッ・	クトレーナーに必要 の観察と解析につい	な評価、検	査測定の方法、			
	15	トレー	ナー評価実習	15		クトレーナーに必要 の観察と解析につい		査測定の方法、			

授業科目	トレーナー総合実習I(MT1・	担当教員	若松直斗	-	アスレティックトレーナー
1又来作口	PH1)	実務経験	 有 : ■	無:□	7 7 7 7 9 9 7 7
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	トレーナ	⊢─総合	(実習∥(トレ1)		担当教員	土岐 政義	土岐 政義			
対象年次・学期	1年・集	中		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	トレープを目的と		場に帯同し、救急対	寸応、	評価、コンディ	ショニング、リコン	ンディショニン	ングが出来ること		
到達目標	トレーラ 来ること			西 、⊐	ンディショニン	グ、リコンディショ	ニングについ	いて選手に説明出		
テキスト・ 参考図書等	公認 A ⁻	「テキス	\(\)							
		評価方法 評価割合(%) 評価基準								
±π/ エ → `+	試験 レポート		0							
評価方法・ 評価基準	「基準 ハラフト 0 「トレ					i書」の提出をもって	、活動状況	を確認、評価を		
	提出物		0	判定す	する∘					
	その他		100	<u>-</u>						
履修上の 留意事項	特になし	特になし。								
履修主題・	回		履修主題			履修 履				
履修内容	1	トレー	ナー実習			クトレーナーに <mark>必</mark> 要 Iンディショニング、				
	2	トレー	ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める (救急対 応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	3	トレー	-ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対 応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	4	トレー	-ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める (救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	5	トレー	- ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める (救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	6	トレー	 ナー実習			クトレーナーに 必要 ロンディショニング、				
	7	トレー	ナー実習		アスレティッ・	クトレーナーに 必要 リンディショニング、	を能力を高い	める (救急対		
	8	トレー	ナー実習			クトレーナーに 必要 Iンディショニング、				
	9	トレー	ナー実習			クトレーナーに 必要 Iンディショニング、				
	10	トレー	ナー実習		応、評価、=	クトレーナーに 必要 Iンディショニング、	リコンディ	ショニング)		
	11	トレー	ナー実習		アスレティッ・ 応、評価、=	クトレーナーに 必要 Iンディショニング、	要な 能力 を高い リコンディ	める (救急対 ショニング)		
	12	トレー	ナー実習		応、評価、=	クトレーナーに 必 要 Iンディショニング、	リコンディ	ショニング)		
	13	トレー	ナー実習		応、評価、=	クトレーナーに 必要 Iンディショニング、	リコンディ	ショニング)		
	14	トレー	ナー実習			クトレーナーに 必要 Iンディショニング、				
	15	トレー	-ナー実習			クトレーナーに 必 要 ンディショニング、				

+立光t1 □	M	担当教員	山岸舞		
授業科目	トレーナー総合実習II(トレ1)	実務経験	 有 : ■ 無	! :□	アスレティックトレーナー
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	ボランティ	ア活動[共通1]	担当教員	教員 未定					
対象年次・学期	各学科就 ・集中	職学年(3年、2年)	必修・選択区分	選択	単位数				
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間			
授業目的	ボランティ	ア活動を通じて、直接	的に実践力を身につ	ける。					
到達目標	ボランティ	ア活動先における実務	遂行を通じてボランテ	ティア精神や各種能	(力・技術力	の向上を図る。			
テキスト・ 参考図書等									
	評価方法	法 評価割合(%)		評価基準					
	試験	0		. 10 1/	¥/=.155=.	102146			
評価方法・ 評価基準	レポート	+	ボランティア活動先の判断にて評価しても						
可调坐十	小テスト 提出物		ス担任間において情						
	その他	100	「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する no.						
履修上の 留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかり取りながら、目標達成を目指してください。								
履修主題・	回	履修主題		履修四	 内容				
履修内容	1	ボランティア活動先にお 実務遂行	ホランティア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	2	ドランティア活動先にお 実務遂行	・ 一 一	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	3 5	ドランティア活動先にお 実務遂行	ホランテイパ	ティア活動内容について、実務を通じて学習する					
	4	ドランティア活動先にお 実務遂行	ホランテイパ	?活動内容について、実務を通じて学習する					
	5	ドランティア活動先にお 実務遂行	ホランティグ	- イア活動内容について、実務を通じて学習する					
	6	ドランティア活動先にお 実務遂行	ホランティア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	/ }	ドランティア活動先にお 実務遂行	小フンテイグ	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	8 3	ボランティア活動先にお 実務遂行	小フンテイグ	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	9	ドランティア活動先にお 実務遂行	小フンティア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	10	ドランティア活動先にお 実務遂行	小フンティア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	11	ボランティア活動先にお 実務遂行 	ホランティア.	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	12	ボランティア活動先にお 実務遂行	小フンティア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	13	ボランティア活動先にお 実務遂行	小フンティア	ランティア活動内容について、実務を通じて学習する					
	14	ボランティア活動先にお 実務遂行 バスショニア活動先にお	小フノディア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			
	1 16 1	ボランティア活動先にお 実務遂行	^{iiする} ボランティア	活動内容について、	実務を通じ	て学習する			

授業科目	ボランティア活動I(共通1)	担当教員実務	
対象年次・学期	各学科就職学年(3年、2年)	経験 担当	
授業形態	・集中	教員 実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験 ————担当	
		教員	
		経験担当	
		教員 実務	
		経験 担当	
		教員 実務	
		担当 教員	
		実務経験	

授業科目	検定対策I(MT SB1)	1 · IN1 · CO1 ·	担	当教員	田中 いぶき			
対象年次・学期	1年・通年		必修・	・選択区分	必修	単位数		
授業形態				業回数	30回	時間数	60時間	
授業目的	健康運動指導	健康運動指導士について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。						
到達目標	健康運動実践指導者合格に向けた基礎知識の習得							
テキスト・ 参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト							
	評価方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験	0						
評価方法・ 評価基準	レポート 小テスト	0	小ニフト	スの他(平	講姿勢、受講態度	E笙) t. 松合的	uっ ! (
и пише т	提出物	40	か テスト	、 その他(文	神女男、又神恋 尽	を守)を総口的	IIに計1Щ9 つ∘	
	その他	60						
履修上の 留意事項								
履修主題・		履修主題			履修			
履修内容		エンテーション、健 指導士について		授業内容説明、評価や諸注意/健康運動指導士の試験について				
	2 業界	研究・読解力演習		健康運動指導士・健康運動実践指導者とは 文章問題・漢字				
	3 健康	運動実践指導者試	験対	第1章 健康づくり施策概論				
	4 健康	運動実践指導者試	験対	第1章 健康づくり施策概論				
	5 策	運動実践指導者試	5	第1章 健康づくり施策概論 作問				
	6 健康	運動実践指導者試	験対	第3章 機能	(解剖とバイオメカ	ニクス		
	7 策	運動実践指導者試	5	第3章 機能	(解剖とバイオメカ	ニクス 作問	1	
	8 策	運動実践指導者試	5	第3章 機能	(解剖とバイオメカ	ニクス 作問]	
	第 策	運動実践指導者試	5	第4章 栄養	摂取と運動			
	10 健康	運動実践指導者試	験対	第4章 栄養	摂取と運動			
	11 健康	運動実践指導者試	験対	第4章 栄養	摂取と運動 作問			
	12 策	運動実践指導者試	F	前期まとめ				
	13 策	運動実践指導者試	F	前期まとめ				
	14 策	運動実践指導者試	F	前期まとめ				
	健康 15 策	運動実践指導者試	験対 i	前期まとめテ	スト			
		運動実践指導者試	験対	第5章 運動	加指導の心理学的基			
	17 策	運動実践指導者試	5	第5章 運動	指導の心理学的基	基礎		
	18 健康	運動実践指導者試	験対	第5章 運動 第5章 運動	が指導の心理学的基	基礎 作問		

19	健康運動実践指導者試験対 策	第6章 体力測定と評価
20	健康運動実践指導者試験対 策	第6章 体力測定と評価
21	健康運動実践指導者試験対 策	第6章 体力測定と評価 作問
22	健康運動実践指導者試験対 策	第7章 健康づくりと運動プログラム
23	健康運動実践指導者試験対 策	第7章 健康づくりと運動プログラム
24	健康運動実践指導者試験対 策	第7章 健康づくりと運動プログラム 作問
25	健康運動実践指導者試験対 策	第9章 運動障害と予防・救急処置
26	健康運動実践指導者試験対 策	第9章 運動障害と予防・救急処置
27	健康運動実践指導者試験対 策	第9章 運動障害と予防・救急処置 作問
28	健康運動実践指導者試験対 策	後期まとめ
29	健康運動実践指導者試験対 策	後期まとめテスト
30	まとめテスト	まとめテスト

授業科目	検定対策I(MT1・IN1・CO1・ SB1)	担当教員	田中いぶき	
		経験	有:□ 無:■	
対象年次・学期	1年・通年	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		

授業科目	スポーソ	ソと指導	者[[トレ1]		担当教員	吉田 聡美	
対象年次・学期	1年・通	通年		必但	多・選択区分	必修	単位数
授業形態	講義及征	びこれま	での体験の共有		授業回数		時間数
授業目的	性を把抗	握し、そ		真やトレ	・一ニング方法、		において対象者のそれぞれの特 、医学的知識 (けが、障害、疾
到達目標	ける。		して、対象者の物 分自身を成長さ				基本的な知識や考え方を身に付
テキスト・ 参考図書等	基礎から	う学ぶス	k(公益財団法人 ポーツ心理学 :ポーツ心理学ワ-		•		
	評価	方法	評価割合(%)			評価基	準
	試験		80				
評価方法・ 評価基準	レポート		0	授業内	りで行うテストフ	及び課題等の提!	出物、その他(受講姿勢、受講
計剛基年	提出物	`	40		等)を総合的に評		
	長山物 その他		10				
履修上の 留意事項	1講 2.授業 う確かな	課題や v知識を	 より行う (パワー テストで理解度の	確認を 前向きた	実施する。あら	らゆる分野の指導	ウブック) 導者となる意識を高め、それに伴 哉の財産を蓄え、スポーツ指導
			履修主題			履何	修内容
履修主題・ 履修内容	1	コーチ	ーングとは		<ガイダンス> コーチングと グッドコーチ		⁻ る / グッドプレーヤーを 育 てる
	2	コーチ	ングとは		コーチングの ーチング	目的としての4C	's / プレーヤーズセンタードなコ
	3	コーチ	たに求められる役割	1	指導者が負う 割 /	ツ環境の構築(る役割 / コーチの果たすべき役 (予防) と問題発生時の対処法
	4	一ツ指	・ツ事故におけるス 貨導者の法的責任		義務(過失責		任 / スポーツ指導者の負う注意 a事故事案
	5	1	ツ事故におけるス 後導者の法的責任	-	免責同意の有	 効性/スポーツ	事故 のリスクマネジメント
	6	コーチ スキル	- に 求 められる知詞 -	<u></u> 戦と	コーチング文	 脈/専門知識/対	他者の知識/対自己の知識
	7	対他者	首力を磨こう		コミュニケー:	ション/ 5 W2H 等	
	8	対他者	首力を磨こう				シップスキル/PM理論/チームワ
	9	対他者	首力を磨こう		プレゼンテー:	ションスキル/情: /チームミーティ	報収集しニーズを知る/承認/効 ・ング
	10	対他者	 首力を磨こう				・・ 況を把握/集団への配慮と伝え方
	11	対他者	************************************		その他対他者	スキル/承認/傾耳	聴/カウンセリングとは
	12	対他者	首力を磨こう		コーチの学び	/自己分析/自己3	理解
	13	対他者	・ 首力を磨こう		コーチのセル [・] ルする方法	フマネジメント/ラ	適切な覚醒水準/自己コントロー
	14	対他者	************************************			考法や伝達方法	/積極的思考/合理的思考方法/自
	15	対他者	首力を磨こう			いて/実際に成長	長計画を立てて実施
	16	スポー	-ツ仲裁				問題点/スポーツ仲裁とは/(公 (JSAA) /スポーツ仲裁裁判所

17	スポーツ倫理	スポーツ倫理が問題となる事案 / フェアプレーの精神 / スポーツの価値を体現すべきスポーツ指導者として
18	時代をリードするコーチン グ	女性コーチの活躍とスポーツを通した女性の社会進出/女性アスリートの障害と対策 / スポーツによる精神障害と対策
19	心のトレーニング	スポーツにおける動機づけ/目標設定
20	心のトレーニング	集中力/集中力が乱れる要因/集中力を高める方法
21	心のトレーニング	イメージトレーニングの効果/イメージトレーニングの方法/実 力発揮/競技力向上
22	心のトレーニング	あがり/プレッシャー/スランプ/他者観察/個人差を考慮した指導/能力差を考慮した指導方法/学習理論
23	コーチング環境の特徴	ジュニア期のコーチングの留意点 / 年齢区分からみたコーチングの留意点 / トレーニングの至適年齢/発育発達段階に応じた指導方法
24	コーチング環境の特徴	遺伝の影響 / 運動部活動でのコーチングの留意点/中学生・ 高校生の心理と運動の特徴の理解
25	コーチング環境の特徴	中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点/運動を継続するためのアプローチ/TTM
26	コーチング環境の特徴	性別の考慮①女性の身体の特徴/摂食障害
27	コーチング環境の特徴	性別の考慮②性別・文化の考慮
28	ハイパフォーマンススポーツ における効果的なコーチン グ	ハイパフォーマンススポーツとは何か?/社会的な影響と役割
29	ハイパフォーマンススポーツ における効果的なコーチン グ	ハイパフォーマンススポーツの本質~良き競い合い~
30	まとめ	振り返り/共有/総括

授業科目	スポーツと指導者[トレ1]	担当教員	吉田聡美	<u> </u>	スポーツメンタル上級指導士/コ
1又来作口	入小 ソと相等日にドレリ	実務経験	有:■	無:□	一チングデベロッパー
対象年次・学期	1年・通年	担当教員			
授業形態	講義及びこれまでの体験の共有	実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	検定対策 SB1〕	策II(MT1・IN1・CO1・			担当教員	喜多 奎介			
対象年次・学期				必何	多・選択区分		単位数		
授業形態					授業回数		時間数		
授業目的	健康運	健康運動実践指導者合格に向けて理論対策を行い、重要な章の理解度を深める。							
到達目標	健康運動	動実践技	指導者認定試験 <i>台</i>	格レベ	いへの到達、例	建康運動実践	指導者に求められる	知識を習得す	
テキスト・参考図書等									
	評価が	方法	評価割合(%)			評価	基準		
	試験								
評価方法・	レポート	`							
評価基準	小テスト	`	40	授業原	態度、提出物の	取り組み状況	2等を踏まえて総合[的に判断する。	
	提出物		20						
	その他		40						
履修上の 留意事項									
履修主題・	回		履修主題				履修内容		
履修内容	1	卜重要			2章の重要項目総まとめ①				
	2	ト重要			2章の重要項目まとめ②				
	3	ト重要			2章の重要項目まとめ③				
	4	ト重要			2章の重要項目まとめ④				
	5	健康地	運動実践指導者テ 要項目	・キス	2章の重要項目まとめ⑤				
	6	ト重要			2章重要項目総まとめ				
	7	ト重要			2章授業内小	テスト			
	8	ト重要			8章重要項目	まとめ①			
	9	ト重要			8章重要項目	まとめ②			
	10	ト重要			8章重要項目	まとめ③			
	11	ト重要			8章重要項目	まとめ④			
	12	健康道 ト重要	運動実践指導者テ 要項目	·キス	8章重要項目	まとめ⑤			
	13	ト重要			8章重要項目	総まとめ			
		健康证	重動実践指導者デ	キス	8章授業内小テスト				
	14	ト重要			8草授業内小	テスト 			

授業科目	 検定対策II(MT1・IN1・CO1・	担当教員	喜多奎介		健康運動実践指導者
12 * 17 * 1	SB1)	実務経験	有:■	無:□	性
対象年次・学期		担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	ストレッチ(AT1①・MT1)			担当教員	北村 浩人			
対象年次・学期	1年前期	 }		必但	多・選択区分		単位数	
授業形態	実技				授業回数		時間数	
授業目的	基礎解語	剖学を理	里解し、直接人の	身体に	触れ筋肉の起ぬ	台停止にそって施術	行を行えるよう	にする。
到達目標	基礎解語	基礎解剖学を理解し、安全で的確に伸ばしたい部位にストレッチを行う事ができる。						
テキスト・ 参考図書等	パートラ	ナースト	レッチスタンダー	-ド				
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		0					
評価方法・ 評価基準	レポート		0				AT (T	
計画基準	小テスト	`	0	その化	也(受講姿勢、出	出席日数)を総合的	に評価する。	
	をの他		100					
履修上の 留意事項	各章に対	付しての						
履修主題・	0	回 履修主題			履修内容			
		パートナーストレッチの基				履修	内容	
履修工程。	1)基	パートナース	トレッチの特徴とな		
		礎知證	ナーストレッチの				構成を学ぶ。	F _o
	1	礎知證 下肢ス	ナーストレッチの 戦を 学 ぶ。	習①	ハムストリン	トレッチの特徴と	構成を 学 ぶ。 へのアプローラ	
	1 2	礎知語 下肢ス 下肢ス	ナーストレッチの 戦を学ぶ。 ストレッチ実技練	習①	ハムストリン	トレッチの特徴とな	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への	
	1 2 3	礎知語下肢 フ下肢 フ	ナーストレッチ <i>の</i> 戦を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練	習① 習② 習③	ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下脚	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への	
	1 2 3 4	礎知語 下肢っ 下肢っ 下肢っ	ナーストレッチの 戦を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練	習① 習② 習③ 習④	ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下脚 下肢全体への	トレッチの特徴とが グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 退部へのアプローチ アプローチ復習。 下肢へのアプロー	構成を学ぶ。 へのアプローラ 、大殿筋への	アプローチ
	1 2 3 4 5	礎知識下肢 フ下 下 肢 フ	ナーストレッチの 戦を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練		ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下脚 下肢全体への 今まで学んだ 形式で施術を	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 部へのアプローチ アプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 下肢へのアプロー	構成を学ぶ。 へのアプローラ 、大殿筋への ・。 チ方法を組み	アプローチ
	1 2 3 4 5 6	礎知 下 下 下 下 た た た た た た た た た た た た た	ナーストレッチの 戦を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練		ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下脚 下肢全体への 今まで学んだ 形式で施術を 今まで学んだ	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 型部へのアプローチ アプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 下肢へのアプロー 行う。	構成を学ぶ。 へのアプローラ 、大殿筋への ・。 チ方法を組み	アプローチ
	1 2 3 4 5 6	礎 取 肢 肢 皮 フ フ フ ト 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	ナーストレッチの 機を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実践練	習(1) 習(2) 習(3) 習(4) 習(1)	ハムストリン・ ハムストリン・ 大殿筋、下脚 下肢全体への 今まで学んだ 形式で学んだ 今までで施術を 今までで施術を 所式で強術を 所式で施術を 所式で施術を	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 型部へのアプローチ アプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 下肢へのアプロー 行う。	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への ・。 チ方法を組みる チ方法を組みる	アプローチ
	1 2 3 4 5 6 7 8	礎 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た た た た た た	ナーストレッチの 機を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練		ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下脚 下肢全体への 今までで施術を 今ま式で学んだを 今ま式でで施術を 所式にでかんだ。 所式に 所へのア 胸筋、肩甲骨	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 認部へのアプローチ アプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 下肢へのアプロー 行う。 プローチ。	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 大 ・ 大 ・	アプローチ
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	礎 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た	ナーストレッチの 域を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練 ストレッチ実技練		ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下版 下肢全体への 今ま式でで施術を 今形式にでで施術を 所に、	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 がみのアプローチ アプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 下肢へのアプロー 行う。 プローチ。 プローチ。 プローチ。 ででのス アプローチ復習。	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への ・。 チ方法を組み1 チ方法を組み1	アプローチ
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	で で で 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た	ナーストレッチの 裁を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練		ハムストリン: ハムストリン: 大殿筋、下肢 へのだ 大殿 全 学 が で が で が で が で で が で が で が で が で が で	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 型部へのアプローチ でアプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 で下肢へのアプロー でしま。 でのアプロー でのス でのアプロー でのス でのス でのアプロー でのス でのス でのアプロー でのス でのアプロー でのス でのアプロー でのス でのアプロー でのス でのアプロー でのス でのアプロー でのス	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への ・。 チ方法を組みた チ方法を組みた	アプローチ 合わせて、実践 合わせて、実践
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	で で 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た	ナーストレッチの 裁を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練		ハムストリング ハムス 筋、 体へがある 大殿 全 学施学が、 に かい に かい に かい に かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 がアプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 アけっのアプロー でのス でのス でのス でのス でのス でのス でのス でのス	構成を学ぶ。 へのアプロー : 、大殿筋への ・ : ・ : ・ : ・ : ・ : ・ : ・ : ・ : ・ : ・ :	アプローチ 合わせて、実践 合わせて、実践 合わせて、実践 合わせて、実践
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	で で 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た	ナーストレッチの 域を学ぶ。 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実技練 ストレッチ実践練 ストレッチチ実践練 ストレッチチ実技練 ストレッチチ実技練 ストレッチチ実技練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練 ストレッチ実践練		ハムストリング 大殿 全外形式 大殿 全学施学施の にいる かんだを ででで にいる ででで でいる ででで でいる ででで でん にいる かんだん アード かんがん アード かんがん かんがん アード かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんが	トレッチの特徴と グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 グス、大腿四頭筋 がアプローチ復習。 下肢へのアプロー 行う。 ア間囲へのアプロー プローチ。 プローチ。 プローチ。 でのス プローチ復習。 上肢へのアプロー 上肢へのアプロー 行う。	構成を学ぶ。 へのアプローラ、大殿筋への ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アプローチ 合わせて、実践 合わせて、実践 合わせて、実践 合わせて、実践 同わせて、実践 間で実施。

授業科目	ストレッチ(AT1①・MT1)	担当教員	北村浩人		ストレッチトレーナー
1X*11 L	XIVIII WIII	実務 経験	有:■	無:□	XIV Y I V
対象年次・学期	1年前期	担当教員			
授業形態	実技	実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	各種評価	両方法の基礎(トレ1)	担当教員	小倉 大生			
対象年次・学期	AT、M	T、PH1年	必修・選択区分		単位数		
授業形態			授業回数		時間数		
授業目的	価、動作	本授業では、アスレティックトレーナーとして必要な基本的な評価方法について学ぶ。身体機能評価、動作評価、フィットネス評価、スポーツパフォーマンス評価など、多角的な視点から評価技術を身につけ、実践を通じて理解を深めることを目的とする。					
到達目標	測定と記	測定と評価に必要な知識・実技能力を習得し、現場で活動できる人材を育成する					
テキスト・ 参考図書等	公認AT	専門科目テキスト6(検査	・測定と評価)				
	評価が	方法 評価割合(%)		評価基準			
	試験	50					
評価方法・ 評価基準	レポート		試験・小テスト・授	業態度により総合	的に評価します	-	
計逥基华	小テスト		積極的に授業参加が				
	提面物 その他	30					
履修上の 留意事項	授業中に評価を行うため、半袖、短パンを着用してください。 (ジャージ、スウェット生地に限る) 解剖学の基礎知識を前提とした授業内容となるため、必要に応じて復習を行ってください。 ペアワークが多いため、積極的なコミュニケーションを心がけ、相手への配慮を持って授業に臨んでください。 実技中の安全管理を徹底し、正しい判断でアプローチを行う習慣を身につけましょう。					さい。	
履修主題・		履修主題		履修			
履修内容	1	オリエンテーション・自 紹介	己 オリエンテー	オリエンテーション・自己紹介・授業について			
	2	評価とは・姿勢評価①	なぜ評価が必	なぜ評価が必要なのか・アライメント評価			
	3	姿勢評価②・身体組成	アライメント ック	アライメント評価・身体組成の測定方法、意義、フィードバック			
	4	動的評価	様々な動作に	マク 様々な動作に対しての評価			
	5	関節弛緩性評価	関節弛緩性の	関節弛緩性の評価、改善エクササイズ			
	6	関節可動域① (上肢)	関節可動域を	- スト (上肢)			
	7	関節可動域② (下肢)	関節可動域を	- スト (下肢) 、関	前節可動域 (上	肢) 小テスト	
	8	筋タイトネス・徒手筋力 査	〕検 筋タイトネス	・徒手筋力検査・	関節可動域(下肢) 小テスト	
	9	1RM測定	1RM測定の方	法・換算法			
	10	体力テスト ①	体力テスト(フィジカル測定) (の目的、方法		
	11	体力テスト②	高齢者に対し	ての体力テスト			
	12	動作評価①	基礎トレーニ	ング動作評価			
	13	動作評価②	スプリント動	作に対しての評価	→改善 エクササ	ナイズ	
		有羽	前期級復習	スプリント動作に対しての評価→改善エクササイズ 前期総復習			
	14	復習	刊知心可女目	前期総復習前期範囲テスト			

授業科目	各種評価方法の基礎(トレ1)	担当教員	小倉大生	Ē	アスレティックトレーナー
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	AT、MT、PH1年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	健康づく	くり運動	 の実際(MT1)	4	担当教員	稲山 敬太			
対象年次・学期	1年・通	年		必修	・選択区分	必修・2単位	単位数		
授業形態				4	授業回数		時間数		
授業目的	エアロビックダンスは、健康・体力化 ーズに合わせたプログラムが盛んに管 この授業では基本となるエアロビクス 誰でも楽しく行える運動としての理解 また、生活習慣病の予防や改善に効 とで変快展や体力に対する自信をも				されている。 ステップやコン 深めていく事で があり、体力の せてくれる効!	ビネーションの体 を目的とする。)向上やストレス解 果も実感する。	験を通 して、 消、そして 全	老若男女問わず・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
到達目標	する。 また、ク	安全で効果的な動作や姿勢を学び、有酸素運動の習得と社会体育の指導者としての体力作りを目標する。 また、グループで指導や発表をする事で指導技術を学び、 「伝える力」「表現力」「リーダーシップ」などの社会で必要なコミニュケーション能力を養う。							
テキスト・ 参考図書等	なし なし								
	評価方	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		50						
評価方法・ 評価基準	レポート		0	グルー	プでの発表会を	を小テストとする。			
可順坐平	小テスト		10			講姿勢等で評価す	る。		
	その他		40						
履修上の 留意事項	スタジオ 運動着で	での参加	 導実践が中心とな (ジャージ、スウ	エット、	短パン、Tシ	導者に必要な指導 ャツ、トレーナー) -ターは認めない。	0	たる。	
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	オリエ	ンテーション		授業内容・形式、施設の利用法、諸注意等の説明/W-up・ C-down				
	2	班分に	ナテスト		クロールによる能力テスト				
	3	クロー	-ル		水泳の基本姿勢・キック・ストローク				
	4	クロー	-ル		キック・ストローク				
	5	クロー	-ル		呼吸動作・コンビネーション				
	6	クロー	-ル		呼吸動作・コ	コンビネーション・	ターン・能力	Iテスト	
	7	平泳き	,n		キック・ストローク①				
	8	平泳き	n T		キック・ストローク②				
	9	平泳き	yn T		キック・ストローク③				
	10	平泳き	yı		キック・スト	ローク・コンビネー	-ション①		
	11	平泳き	yr		キック・スト	ローク・コンビネー	-ション②		
	12	平泳き	an T		キック・スト	ローク・コンビネー	-ション③・1	能力テスト	
	13	クロー	ル・平泳ぎ		クロール・平	泳ぎ(20m・40m) 1		
	14	クロー	ル・平泳ぎ		クロール・平泳ぎ (20m・40m) ②				
	15	着衣才	く泳		着衣水泳・安				
	16	オリエ	ンテーション		授業内容・形式、諸注意等の説明。 自己紹介。 エアロビックダンス体験。				
	17	基本重	が作の習得①			ップタッチ、Vスラ バイン、ニーリフ	-		
	18	基本重	加作の習得②		2人1組で行う	-			
	19	ウォー て。	・ミングアップにつ)(1		アップの 目的・効 lみ合わせたコンビ		動く。	

	+++ <i></i>	<u></u>
	基本動作を組み合わせたコ	
	ンビネーションで動く。	
20	グループでコリオ作成。	5~6人のグループで振り付けを考える。
21	練習	作成したコリオ練習。
	発表会	この発表会を小テストとする。
22	ローインパクトとハイインパ	ローインパクトとハイインパクトの違い。
22	クトについて	ハイインパクト体験。
23	テストのコリオを習得	テストのコリオを習得
24	テスト対策①	テストの流れについて
25	テスト対策②	グループ練習 背面指導 対面指導 指導位置 隊形の変化など
26	テスト対策③	グループで練習
27	テスト対策④	グループ練習
28	テスト対策⑤	グループ練習
29	テスト	実技とレポート
30	テスト	実技とレポート

授業科目	健康づくり運動の実際(MT1)	担当教員	
対象年次・学期		経験 担当	
		教員 - 実務	
授業形態		経験 担当	
		教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	

授業科目	カレッジ	ジイベン	ト(トレ1)		担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・集	中		必他	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法				ディスカッショ	ンを通じ企画する	事を目的とす	· る。	
到達目標	誰もが劣	誰もが楽しめるイベントを目指す。							
テキスト・ 参考図書等	必要に帰	なじて資	料を配布。						
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポート		20	_	- \ 20 %				
計画基件	小テスト	`	0		提出物 20% その他 60% (受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)				
	提出物		20 60						
履修上の 留意事項	プリント	ニケーシ	 :覚機器等を活用			す。、人との信頼限 ナての大切な要素を			
履修主題・	0		履修主題		履修内容				
履修内容	1	カレッ	ジイベント内容(1)	イベントの内容説明				
	2	役割分	}担		執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定				
	3	リハー	サル		各種目のルール、及び実践確認				
	4	イベン	卜実施		スポーツ大会				
	5	振り返	<u> </u>		レポート作成、提出				
	6	カレッ	ジイベント内容(2	イベントの内	容説明			
	7	役割分	}担		執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定				
	8	リハー	サル		各種目のルール、及び実践確認				
	9	イベン	ト実施		スポーツフェ	スティバル			
	10	振り返	<u> </u>		レポート作成	 、提出			
	11	カレッ	ジイベント内容(3	イベントの内	容説明			
	12	役割分	}担		執行部、委員	、イベント参加者	、展示担当都	当の決定	
	13	リハー	サル		執行部、委員	 し、イベント参加者	、展示担当都	当日準備	
	14	イベン	卜実施		学園祭				
	15	振り返	<u> </u>		レポート作成	、提出			

授業科目	カレッジイベント[(トレ1)	担当教員	田中いぶき	
JANTIA .		実務 経験	有:□ 無:■	
対象年次・学期	1年・集中	担当教員		
授業形態		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		

授業科目	コミュニケーションIA(トレ1)			担当教員	今北 雄太				
対象年次・学期	1年・集	 [中		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的	コミュニケーションを通じて、自分自				}の課題を抽出	し、克服する。			
到達目標	社会です	社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上及び志向となることを目指す。							
テキスト・ 参考図書等	Referer	nce Boo	k(公益財団法人	日本スを	ポーツ協会)				
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>		
	試験		0						
評価方法・	レポート				- ト 20%				
評価基準	小テスト	`			勿 20% 1 60% (受講:	姿勢、受 講態度等	≨30%、担当戶	近見30%)	
	提出物			C 0712	也 60% (受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)				
	その他 プリント	・視聴	覚機器等を活用	しながら	・ ・ 進めていきます	ま。、 人 との信頼	関係を築くた	めのツールとして	
履修上の 留意事項	『コミュ	ニケーシ	/ョン』はとても大			ての大切な要素を			
	と回ぎる	ゴ ってみ	ましょう。 履修主題		履修内容				
履修主題・ 履修内容	1	コミュ	ニケーションとは	t?	『自分を知ってもらおう!』				
	2	コミュ	ニケーションとは	t?	目己紹介 『自分を知ってもらおう!』 問答ゲーム"				
			コミュニケーションとは?		問合ケーム"				
	3	コミュ	ニケーションとは	t?	『自分を知って 社会人として	<u>必要なコミュニケ</u>	ーションとは	?	
	4		ニケーションとは ニケーションとは		『自分を知って 社会人として 『自分を知って	<u>必要なコミュニケ</u> [もらおう!』		?	
		コミュ		t?	『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め 『会話を上達し 第一印象を良	必要なコミュニケ てもらおう!』 る、考えを引き出 しよう!』 とくするためには /	l व		
	4	コミュ	ニケーションとは	t? =ルの	『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め 『会話を上達し 第一印象を良 『会話を上達し 質問上手にな	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出 しよう!』 とくするためには / しよう!』 さんめには / 信頼	聞き上手にな	るためには	
	4 5	コミュ コミュ 向上 コミュ 向上	ニケーションとは	t? =ルの =ルの	『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め 『会話を上達し 第一印象を直し 質問上手にな 『会話を上達し	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出 しよう!』 とくするためには / しよう!』 さんめには / 信頼	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには	
	4 5 6	コミュ 向上 コミュ 向上 向上 向ミュ	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ	t? =ルの =ルの	『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め 『会話を上達し 第一印象を直し 質問上手にな 『会話を上達し	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出しよう!』 とくするためには / レよう!』 さるためには / 信頼 しよう!』 おう!』 題を選ぶためには	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには	
	4 5 6 7	コミュニカー コーク コーク コーク コーク コーク コーク コーク コーク 対 他 者 オーク	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ	t? =ルの =ルの	『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め 『会話を上達し 第一印象を上達し 第一記を上達し 質問上手にな 『会話を上達し 質の話を上達し 盛り上がる話	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出しよう!』 とくするためには /しよう!』 さためには / 信頼しよう!』 題を選ぶためには ションスキル	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには	
	4 5 6 7 8	コニュニューランション・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール・コール	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ ず力を磨こう	t? =ルの =ルの	『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、集 の会話を見を上 第一話を上達し 質問話を上達し 『会話を上達し なり上がる コミュニケー	必要なコミュニケ でもらおう!』 る、考えを引き出 よう!』 とくするためには / 信頼 しよう!』 でるためには / 信頼 しよう!』 題を選ぶためには ションスキル プスキル	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには	
	4 5 6 7 8 9	コニューコーローコーローコーローコーローコーローコーローコーローコーローコーローコー	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ ゴカを磨こう 首力を磨こう	t? =ルの =ルの	『自分を知って社会人を知ってでは会分を知ってではってる。 「自分る」 「自分をを上する」 「自己のでは、一年のは、一年のは、一年のは、一年のは、一年のは、一年のは、一年のは、一年の	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出しよう!』 とくするためには / によう!』 とるためには / 信頼しよう!』 題を選ぶためには ションスキル プスキル ションスキル	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには	
	4 5 6 7 8 9	口 口向口向口向 対 対 対 対 対 対 対 対 世 者	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ ゴカを磨こう 首力を磨こう 首力を磨こう	t? =ルの =ルの	『自分を知って 社会人を知って で 社会分をとしてで 伝える を 上 な ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出いよう!』 とくするためには / 信頼いよう!』 をおめには / 信頼いまから!』 フスキルフスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキル	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには	
	4 5 6 7 8 9 10	口口向口向口向对 対 対 対 対 対 対 対 対 対 世 他 他 他 他	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ ボカを磨こう ボカを磨こう ボカを磨こう	t? =ルの =ルの	『自分を知ってで社会分を知ってでは会分を、とりない。 「自分をを知ってではない。」 「自分をを知るをといる。」 「自分ををはない。」 「自分をはない。」 「自分をはないい。」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる。」 「自分をはないる。」」 「自分をはないる。」 「自分をはないる」」 「自分をはないる。」 「自分をはないる」」 「自分をはないる」 「自分をはないる」」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる」 「自分をはないる」」 「自分をはないる」 「自分をはないる」」 「自分をはないる」 「自分をはないるいる。」 「自分をはないるいるいる。」 「自分をはないるいる。」 「自分をはないるいるいるいる。」 「自分をいるいるいるいるいるいるいる。」 「自分をいるいるいるいるいるいるいる。」 「自分をいるいるいるいるいるいる。」 「自分をいるいるいるいるいるいるいる。」 「自分をいるいるいるいるいるいるいる。」 「自分をいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいる	必要なコミュニケでもらおう!』 る、考えを引き出いよう!』 とくするためには / 信頼いよう!』 をおめには / 信頼いまから!』 フスキルフスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキルションスキル	聞き上手にな	るためには めには	
	4 5 6 7 8 9 10 11	口口向口向对对对对对他的自己的人,但是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ ゴカを磨こう 首力を磨こう 首力を磨こう 首力を磨こう 首力を磨こう	t? =ルの =ルの	『自分を知ってで社会のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	必要なコミュニケ でもらおう!』 る、考えを引き出 よう!』 とくするためには / 信頼 であため!』 であためには / 信頼 ションスキル ションスキル ションスキル ションスキル ションスキル	す 聞き上手にな 関係を築くた	るためには めには	

恒米幻口		担当教員	千保大聖	!	トレーニング指導者
授業科目	コミュニケーションIA(トレ1)	実務経験	有 : ■	無:□	トレーニング指导自
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	コミュニ	ニケーシ	コミュニケーションIB(トレ1)		担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・集	€中		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的	コミュニケーションを通じて、自分自				の課題を抽出	し、克服する。			
到達目標	社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上及び志向となることを目指す。								
テキスト・ 参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)								
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・	レポート	-		_	- ト 20%				
評価基準	小テスト				勿 20% 5 60% (受講	姿勢、受講態度等	30%、担当戶	听見30%)	
	提出物			C 07/10					
	その他 プリント	、・視聴	 覚機器等を活用	しながら	- ら 進 めていきまっ	す。、人との信頼原	関係を築くた	めのツールとして	
履修上の 留意事項	「コミュ	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして 『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分							
	1 1			いりです。	TAXICIDIT	(の人切な安糸を	子ぶ期间とし	/ (、具別に日刀	
	i e		ましょう。		TAXICIDIA			, C、 典则に日刀	
履修主題・ 履修内容	と向き台 回 1	合ってみ			『自分を知って	履修,		, 仁、典別に日ガ	
		合ってみ コミュ	ましょう。 履修主題	t?		履修にてもらおう!』		, 仁、 具別に日刀	
	1	含ってみ コミュ コミュ	ましょう。 履修主題 ニケーションとは	t? t?	『自分を知って 自己紹介 『自分を知って 問答ゲーム』 『自分を知って 社会人として	履修Pである。 である	内容		
	1 2	コミュコミュコミュ	ましょう。 履修主題 ニケーションとは	t? t?	『自分を知って 自己紹介 『自分を知って 問答ゲーム』 『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め	履修で (もらおう!』 (もらおう!』 (ひまなコミュニケーでもらおう!』 (る、考えを引き出	内容 一ションとは		
	1 2 3	舎ってみ □ミュ □ミュ □ミュ	ましょう。 履修主題	t? t? t?	『自分を知って 自己紹介 『自分を知って 問答ゲーム』 『自分を知って 社会人として 『自分を知って 伝える、褒め 『会話を上達し	履修で (もらおう!』 (もらおう!』 (ひまなコミュニケーでもらおう!』 (る、考えを引き出	内容 ションとは す	?	
	1 2 3 4	合ってみつ コミュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニカー コミュニカー コーカー コーカー コーカー カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ	ましょう。 履修主題	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己紹介 『自分を知って問答ゲーム』 『自分を知って社会人を知って 社会分をとしてて 「自分るを上達し第一印象をしてで会話を上達し	履修に (もらおう!』 (もらおう!』 必要なコミュニケーでもらおう!』 (る、考えを引き出っよう!』 (くするためには / 間 しよう!』	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5	合ってみつ コミュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニカー コミュニカー コーカー コーカー コーカー カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ	ましょう。 履修主題 -ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己紹介 『自分を知って問答が一ム』 『自分を知って で自分人を知って 「自分人を知ししてで 伝え話のと知って 「会話に明を上達し で会話を上達し で会話を上達し	履修に (もらおう!』 (もらおう!』 必要なコミュニケーでもらおう!』 (る、考えを引き出っよう!』 (くするためには / 間 しよう!』	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5	合ってみつ コーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコー	ましょう。 履修主題	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己紹介 『自分を知って問答が一ム』 『自分を知って で自分人を知って 「自分人を知ししてで 伝え話のと知って 「会話に明を上達し で会話を上達し で会話を上達し	履修に もらおう!』 もらおう!』 必要なコミュニケー もらおえを引き出 よう!』 とくするためには / 信頼に しよう!』 さるためには / 信頼に しよう!』 をあためには / 信頼に しよう!』	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5 6	合ってみ コーコーコーコーコーコーラー 対 コーコーコーコーコーラー 対 コーコーコーラー 対 は マー・エーコー 大 一	ましょう。 履修主題	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己分を知って自己分を知って間答がを一口ででは一切ででは一切ででは一切ででは一切では一切では一切では一切では、一切では一切では、一切では、	履修に でもらおう!』 でもらおう!』 必要なコミュニケーでも、考えを引き出ったう!』 とくするためには / に よう!』 とくするためには / 信頼に よう!』 題を選ぶためには	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5 6 7	合っ コーコーコーローロー 対対の コーコーコーコーロー 対対 他他を	ましょう。	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己分を知って問答が一ム』で自答がをといってでは、一切ででは、一切ででは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、	履修でしてもらおう!』 にもらおう!』 にもらおう!』 が要なコミュニケーでもらおう!』。る、考えを引き出しよう!』。とくするためには / 信頼によう!』。担を選ぶためには フまンスキルプスキル	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5 6 7 8	合っ コーコーローローコーロー 対対での コーコーコーロー コーコーロー 対対 対対の コーコーロー 対対 対対の はいました 他他を	ましょう。 履修主題 ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己分を知って間合うを知って間を分がしまりををしている。 「自然のでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	履修に (もらおう!』 (もらおう!』 (もらおう!』 があるという!』 (もらおなおう!』 (もらおなおう!』 (もらまう!』 (とするためには/ (しよう!』 (となる)!』 (となるとのには/信頼に (しまを選ぶためには (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとは) (となるとのとなるとのとなるとのとなるとのとなるとのとなるとのとなるとのとなると	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	合っ コーコーローローコーロー 対対対対の コーコーコーロー 対対対対 対対対 はんしん 他他他を	ましょう。	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己分を知って自己分を知って間自己分がある。 「自然の知ってでは自然のでは、自然のは、自然のでは、自然の	でもらおう!』 にもらおう!』 にもらおう!』 にもらおう!』 ともらおう!』 ともらおう!』 にもらおう!』 にもらおっ!』 にもら考えを考!』 とくする!』 とくする!』 には / 信頼 には / 信頼 には といるとうと には / にない にない にない には / にない にない には / にない にない には / にない にない にない には / にない にない にない にない にない にない にない には / にない	内容 - ションとは す 聞き上手にな	? るためには	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	合っ コーコーコーローコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコーコ	ましょう。 履修主題 ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ ニケーションスキ コカを磨こう 首力を磨こう	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って自己分を知って間自己分をのかがをします。「自己分がをします」ででは、「自然を一切した」では、「自然を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を一切を	でもらおう!』 にもらおう!』 にもらおう!』 にもらおう!』 ともらおう!』 ともらおう!』 にもらおう!』 にもらおっ!』 にもら考えを考!』 とくする!』 とくする!』 には / 信頼 には / 信頼 には といるとうと には / にない にない にない には / にない にない には / にない にない には / にない にない にない には / にない にない にない にない にない にない にない には / にない	内容 - ションとは す 聞き上手にな 関係を築くた	? るためには めには	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	合っ コーコーコーローロー コーコーロー 対対対対他の コーコーコーロー 対対対対性 他他 他を付ける コーコーロー は、ま、ま、ま、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、上、	ましょう。 履修主題 ニケーションとは ニケーションとは ニケーションとは ニケーションスススカーションススカーションススカーションスカーションスカーションスカーカを磨こう 首力を磨こう 首力を磨こう	t? t? t? t? =ルの	『自分を知って『自己分を知って『自己分が知を一」で『自己分がのを一」で「自答分人を、分を記述のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	履修で でもらおう!』 でもらおう!』 でもらおう!』 でもらおなコラ!』 でもられなおき!』 でもら考えを考!』 とくする!』 とくする!』 とくする!』 といるためには / 信頼 になっき。 かいこは / 信頼 にいまるとのはは クロック ションスキル ションスキル ションスキル ションスキル	内容 ーションとは す 聞き上手にな 関係を築くた	? るためには めには	

空茶が口	->	担当教員	千保大聖	1	し 一、だや道之
授業科目	コミュニケーションIB(トレ1)	実務 経験	有 : ■	無:□	トレーニング指導者
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	スポーツ MT1・F	ノコンディショニング【〔 PH1〕		担当教員	山岸舞			
対象年次・学期	1年・通	i年	必任	修・選択区分	必修	単位数		
授業形態				授業回数	30回	時間数		
授業目的	パフォーマンス発揮に必要な要因を分の支援を安全かつ効果的に行うための			知識、技能、態	度を習得する			
到達目標	ング計画 ・各種(・コンディショニングと他の関連する専門家の役割について理解し、安全かつ効果的にコンディショニング計画と実践ができる ・各種体力、運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解 し、安全で効果的に実践できるようになる						
テキスト・ 参考図書等	公認アス	公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト3 予防とコンディショニング						
	評価方	方法 評価割合(%)		評価基準			
	試験	5	-					
評価方法・ 評価基準	レポート 小テスト)	能亩 ≒+•►◆∽∠	総合的に評価する			
们顺坐于	小テスト 提出物	2		悲及、 武鞅寺を	総百別に計1149の	0		
	その他	11						
履修上の 留意事項		· を用いた講義形式と D知識を吸収してもら						
履修主題・	回	履修主題		履修内容				
履修内容	1	オリエンテーション		授業内容の説明、諸注意、その他				
	2	コンディショニング! 基礎知識	こおける	パフォーマンス向上のための3要素、トレーニングの原理原則				
	3	コンディショニング ム	プログラ	ピーキングのためのアプローチ方法				
	4	トレーニング負荷の ング	モニタリ	コンディション指標の活用				
	5	ウォームアップ		ウォームアップの目的、効果、方法				
	6	ウォームアップ		ウォームアップの実践				
	7	リカバリー		リカバリーの目的、効果、方法、実践				
	8	競技特性の分析		競技特性に応じた分析の活用				
	9	トレーニング各論 1		正しい動作の評価				
	10	トレーニング各論2		ストレングス	トレーニング			
	11	トレーニング各論3			トレーニングの実践	₺ 		
	12	トレーニング各論4		スプリントト				
	13	トレーニング各論5		アジリティト				
	14	前期のまとめ			プリントの配布と答			
	15	前期確認テスト			字の確認テストを実 	施		
	16	トレーニング各論6			ストレーニング			
	17	トレーニング各論7		バランストレ	,			
	18	トレーニング各論8		ストレッチン	-	-	<u>. </u>	
	19	トレーニング各論9			ーニング、ストレッ			
	20	トレーニング各論 1 コンディショニングに			評価、ストレング		7	
	21	そのほかの情報)対策、女性アスリ 			
	22	コンディショニングは	2関する	女性アスリー	トの特性に対する	運動指導		

	そのほかの情報	
23	コンディショニングに関する そのほかの情報	成長期、高齢者、障がい者の特性
24	コンディショニングに関する そのほかの情報	成長期の運動指導
25	コンディショニングに関する そのほかの情報	高齢者への運動指導
26	コンディショニングに関する そのほかの情報	減量、増量
27	トレーニング各論11	コンディショニングの指導実践
28	トレーニング各論12	コンディショニング指導の実践
29	後期のまとめ	後期確認用プリントの配布と答案
30	後期確認テスト	後期授業内容の確認テストを実施

授業科目	スポーツコンディショニングー	担当教員	石川凌		アスレティックトレーナー、JATI-
1又来作口	MT1 · PH1)	実務 経験	有:■	無:□	ATI
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎(トレ1)		ā	担当教員	高田 涼介			
対象年次・学期	1年・通年		必修	・選択区分	必修	単位数		
授業形態				j	授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	本講義では、トレーナー、スポー 識について理解する。そのために、 予防方法について習得することを			、上肢	・体幹・下肢			
到達目標	各種スポ	ポーツ外	傷・障害の概要、	、発生	要因を理解し、	予防対応策	を計画できるように	こなる。
テキスト・参考図書等	公認AT Referer 身体運動	nce Boo		管理お。	よびスポーツ外	傷・障害の ⁻	予防)	
	評価方	方法	評価割合(%)			評价	価基準	
	試験		0					
評価方法・ 評価基準	レポート 小テスト		0	±±₽₽	ァの仏(巫護)	マ劫. 卒 華能	(度等)を総合的に評	があまっ
ит тысе	提出物		60	百 八 向火 、	その他(文語多	(穷、文碑思	(反守)を総口切に計	-1Щ9 Ә∘
	その他		40					
履修上の 留意事項	テキストを中心とした授業展開。PPTによる授業形式を基本とし、プリントを利用したり、動画等も随時利用していく。授業の前後に小テストを行い、授業の理解度を確認する。トレーナー、スポート指導者を目指すにあたり必要不可欠な科目です。難しい用語・解剖学的用語が多く出てきますが、一礎的なことから学んでいきますので一つずつ確実に理解し、修得して下さい。また、予習・復習する習慣をつけ、積極的に授業に取り組んで欲しいです。この科目を理解する為に、『身体の解剖と機能』についてもしっかり学習しましょう!みなさんの頑張りを期待しております☆1人1冊ノートを用意て下さい☆					ナー、スポーツ 出てきますが、基 予習・復習する 体の解剖と機		
	回		履修主題				履修内容	
履修主題・ 履修内容	1	おける びスポ の 概 念	ンス / スポーツ現 安全・健康管理。 ニーツ外傷・障害 [:]	およ 予防	講義説明 / スッ外傷・障害			●管理及びスポー
		おびの概念のような概念のような概念のような。	ンス / スポーツ現 安全・健康管理。 一ツ外傷・障害・ 、 ・ツ現場における安 で選およびスポー で書予防の概念	およ 予防 マ全 ーツ	ツ外傷・障害	予防の意義		
	1	おびの概念のような概念のような概念のような。	ンス / スポーツ現 安全・健康管理。 ニーツ外傷・障害・ 、 ・ツ現場における安 で理およびスポー	およ 予防 マ全 ーツ	ツ外傷・障害 スポーツ現場	手予防の意義 	こおける安全・健康 全管理、組織と役害	
	1 2	おびのス・外ス(1)ポース・11 ポース・11 ポース・1	ンス / スポーツ現 安全・健康管理。 一ツ外傷・障害・ 、 ・ツ現場における安 で選およびスポー で書予防の概念	およ 予防 マ全 ーツ 予防	ッ外傷・障害スポーツ現場用についてスポーツ外傷	予防の意義 における安全 ・障害の考	こおける安全・健康 全管理、組織と役害	
	1 2 3	おびの祝っているがのの ス・外ス (1) ポークス・外ス (1) ポークス (2)	ンス / スポーツ現 安全・健康管理 一ツ外傷・障害	お 子 全 一 ツ 予 防	ッ外傷・障害スポーツ現場用についてスポーツ外傷	予防の意義における安全・障害の考。・障害の疫	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例	
	1 2 3 4	おびのス・外ス(1)ポース・(2)ポース(3)	ンス / スポーツ現安全・健康管理で、 マ全・健康管理で、 での外傷・障害では、 での現場における安 管理およびスポー 障害予防の概念で、 でい外傷・障害ので	お予 全	ッ外傷・障害 スポーツ現場 用について スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷	予防の意義における安全・障害の考・障害の疫・障害の発	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例	J、ICTやIoTの活
	1 2 3 4 5	おびのス・外ス (1)ポペース・外ス (1)ポペース (2)ポペース (3)ポース (4)	ンス / スポーツ現 安全・健康管理 (ニーツ外傷・障害・ (大) ・ツ現場におけるを でといるででである。 できるがの概念・ツ外傷・障害の・ ・ツ外傷・障害の・ ・ツ外傷・障害の・	お予を一予予予	ッ外傷・障害 スポーツ現場 用について スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷	予防の意義における安全・障害の表・障害の発・障害予防	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介	J、ICTやIoTの活
	1 2 3 4 5 6	おびのス・外ス(1)ポース (2)ポース (3)ポース (5)ポース (6)	ンス / スポーツ現安全・健康管理できた。 一ツ外傷・障害できたがのできるができます。 ではままびスポーでは、できますがの概念できますがのできるできます。 でするが、できますができます。 でするが、できます。 できまずるが、できます。 できまずるが、できます。	お予 を マ ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	ッ外傷・障害 スポーツ現場 用について スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷	予防の意義における安全・障害の疫・障害の発・障害予防・積傷につい	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介	J、ICTやIoTの活
	1 2 3 4 5 6 7	おびのス・外ス (ス(ス) ス(ス(ス) ス(3) ポリポリカ (ス(3) ポリポリカリカ (ス(3) ポリポリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカ	ンス/スポーツ現安全・健康管理できない。 では、	ab A B A B A B A B A B A B A B A B A B A	ッ外傷・障害 スポーツ現場 用について スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷	予防の意義における安全・障害の疫・・障害の発・・障害予防・・損傷につい	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介	J、ICTやIoTの活
	1 2 3 4 5 6 7 8	おびのス・外ス(1) ポピース (1) オの (1) ス・外ス (1) ポース (2) ポース (3) ポース (5) ポース (6) ポケース (8)	ンス/スポーツ現安全・健康管理では、一ツ外傷・障害があり、一ツ外傷・障害のであり、一ツ外傷・障害のであり、一ツ外傷・障害のであり、中ツ外傷・障害のであり、中ツ外傷・障害のであり、中ツ外傷・障害のであり、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では	th A P P P P P P P P P P P P P P P P P P	ツ外傷・障害スポーツ現場用についてスポーツ外傷スポーツ外傷スポーツ外傷スポーツ外傷及ポーツ外傷及ポーツ外傷	予防の意義における安全・障害の疫・障害予防・障害のので	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介	J、ICTやIoTの活
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	おびのス・外ス(1) ポピース (1) オの (1) ス・外ス (1) ポース (2) ポース (3) ポース (5) ポース (6) ポケース (8)	ンス/スポーツ現安全・健康管理できない。 では、	th A P P P P P P P P P P P P P P P P P P	ッ外傷・障害 スポーツ現場 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 及ポーツ外傷 及ポーツ外傷 及ポーツ外傷 及が中字靭帯 足関節捻挫に 肉離れについ 投球障害につ	予防の意義における安全・障害のを・障害 事のの・障害・ でである	こおける安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介	J、ICTやIoTの活
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	おびのス・外ス (ス	ンス/スポーツ現安全・健康・管害・ツ現場におびの大きでは、一ツ明場におびの概ででは、一ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツ外傷・障害の・ツットの・です。	th A P P P P P P P P P P P P P P P P P P	ッ外傷・障害 スポーツ現場 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外傷 なが一ツ外傷 なが一ツ外傷 なが一ツ外傷	子防の意義 における安全 ・障害の疫: ・障害の発: ・障害予防 ・障害の発: でででででででする。	における安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介	J、ICTやIoTの活 · 入
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	おびのス・外ス (ス	ンス/スポーツ現安全・健康管理を対象に対して、	th A P P P P P P P P P P P P P P P P P P	ッ外傷・障害 スポーツの スポーツ外傷 スポーツ外傷 スポーツ外外傷 スポーツを 取す を関節にで カロック スポーツを アンション スポーツを アンション スポーツを アンション アン アンション アンション アンション アンション アンション アンション アン アン アン アン アン アン アン アン アン アン アン アン アン	予防の意義における安全・障害の疫・・障害の予防・ ででましてていて・ 障害に対・	における安全・健康 全管理、組織と役害 え方 学調査と事例 生要因 プログラム立案と介 て	リ、ICTやIoTの活 ・入 ・ ・ く く く トレッチング、

15	確認テスト①	前期全範囲試験
16	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(1)	性別(女性・男性特有の問題)
17	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(2)	年齢・特性
18	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(3)	感染症
19	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(4)	環境 (暑熱、寒冷、高地、落雷)
20	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(5)	環境 (特殊環境、大気汚染、時差、移動、海外遠征時の諸 問題)
21	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(6)	用具、防具、設備
22	確認テスト②	後期前半のまとめ
23	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(7)	競技・種目特性
24	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(8)	走動作
25	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(9)	跳動作、方向転換動作
26	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応 (10)	投球動作、打擊動作
27	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応 (11)	泳動作、あたり動作
28	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応 (12)	滑走動作
29	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応 (13)	1年のまとめ / 試験対策、練習問題配布
30	確認テスト③	1年のまとめテスト

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎I(ト レ1)	担当教員	
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員	
授業形態		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		経験 担当	
		教員	
		経験 担当	
		教員 実務	
		経験	

授業科目	テーピン PH1)	 -グテク	ニックl〔MT1・		担当教員	石川 凌		
対象年次・学期			必		修・選択区分		単位数	
授業形態					授業回数		時間数	
授業目的	解剖学および機能解剖学、スポーツ像				害の病態を踏ま	ミえたテーピングの	手法を理解する。	
到達目標	足関節	捻挫、服	漆関節外傷(A C	L、M	CL損傷) に対	する適切なテーピ	ングが実施出来る。	
テキスト・ 参考図書等								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準		
	評価内容							
評価方法・ 評価基準	評価内容		220:		LATA ALT		. W. A. A	
計测益年	評価割1		60%	美技詞	試験の結果、出	席および授業態度	を総合的に評価する。	
	評価割電	Ħ .	40%					
履修上の 留意事項								
履修主題・	回		履修主題			履修[为容	
履修内容	1	オリエ	ンテーション		授業内容の説明、諸注意など / アンダーラップの巻き方練習			
	2	テーヒ	。 ピングの基礎理論		テーピングの役割、目的、効果、留意点など / アンダーラップの巻き方練習			
	3	足関領	 Îのテーピング		フの合き力練育 足関節捻挫に対するテーピング			
	4	足関領	 Îのテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	5	足関領			足関節捻挫に対するテーピング			
	6	足関領	節 のテーピング		と関節捻挫に対するテーピング			
	7	足関領			足関節捻挫に対するテーピング			
	8	足関領			足関節捻挫に対するテーピング			
	9	足関領	 Îのテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	10	足関領			足関節捻挫に対するテーピング			
	11	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング		
	12	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング		
	13	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング		
	14	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング		
	15	実技詞	式 験					
	16	膝関領	うのテーピング		膝関節前十字	マ靭帯・内側側副鞘	羽帯損傷に対するテーピン グ	
	17	膝関領	う のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	刃帯損傷に対するテーピング	
	18	膝関領	う のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	刃帯損傷に対するテーピング	
	19	膝関領	う のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	刃帯損傷に対するテーピング 	
	20	膝関領	う のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	辺帯損傷に対するテーピング	
	21	膝関領	Îのテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	刃帯損傷に対するテーピング 	
	22	膝関領	う のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	刃帯損傷に対するテーピング	
	23	膝関領	うのテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対するテーピング	

24		膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
25		膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
26		膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
27		膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
28	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
29	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
30	実技試験	

授業科目	テーピングテクニックl(MT1・	担当教員	石川凌		
	PH1)	実務 経験	有:■	無:□	
対象年次・学期		担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		小土河 火			

授業科目		► ► □	割(トレ1)	担当教員	 土岐 政義		
1文未作口	F 7	· 0219	. 古)(ドレリ	担当教員			
対象年次・学期	1年・前	期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態				授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的			割・業務と専門性知識・態度を習得	生や業務遂行上必要と 引する。	となる多様な素	養を理解し、関係	系職種との連携を
到達目標	国内外の関連資格の役割、業務、制度や法的観点から見たトレーナーに求められる倫理と責任について説明ができる 自身の健康管理の重要性を理解し、その予防や対処法について説明できる 科学的根拠に基づいた業務推進のための情報収集と活用方法について説明できる クライアントの特徴を理解し、連携体制の構築に活用できる						角理と責任につい
テキスト・ 参考図書等	公認アス	スレティ	ックトレーナー専	門科目テキスト①「ア	スレティックト	レーナーの役割」	
	評価方	方法	評価割合(%)		評価	基準	
	試験		0				
評価方法・ 評価基準	レポート		0			·	
計画基準	小テスト	`		提出物、受講態度等	芽を総合的に評 り	恤する。	
	その他		50 50				
履修上の		座学講義 プロジェクター映写 (パワーポイント、DVD等) プリント教材 (毎時配布予定) 、グループワーク ディスカッション→レポート→発表 トレーナーに対する理解を深め、さらには、「人間性」も養いながら、将来的な活動に生かしてくだる					
留意事項	ディスカ	」ッショ	ン→レポート <i>→</i> 発	表	」も養いながら、	将来的な活動に	2生かしてくださ
	ディスカ	」ッショ	ン→レポート <i>→</i> 発	表		将来的な活動に	2生かしてくださ
留意事項 履修主題・ 履修内容	ディスカ トレーナ い。	ラッショ: トーに 対 オリエ	ン→レポート→発 する理解を深め、 履修主題 ンテーション、ト	表 さらには、「人間性	履		
履修主題・	ディスカ トレーガ い。 回	フッション トーに対 オリエ ナーと	ン→レポート→発 する理解を深め、 履修主題 ンテーション、ト	表 さらには、「人間性	履成事業について	፪修内容	歴史的背景
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1	フッション トーに対 オリエ ナーと	ン→レポート→発 する理解を深め、 履修主題 シテーション、ト は1	表 さらには、「人間性 レー トレーナー養 トレーナーの	履 長成事業について 起源と歴史にこ	侵修内容 て、トレーナーの	歴史的背景
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2	フッショ トーに対 オリエ ナーと トレー トレー	ン→レポート→発 する理解を深め、 履修主題 シテーション、ト は1 ナーとは2 ナーの業務1	表 さらには、「人間性 レー トレーナー養 トレーナーの いて トレーナーの トレーナーの	履 長成事業について 起源と歴史にこ	修内容 て、トレーナーの ついて、諸外国の	歴史的背景
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3	フッショ トーに対 オリエ ナーと トレー トレー	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 シテーション、トは1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの業務2 ナーの活動と倫理	表 さらには、「人間性 レー トレーナー養 トレーナーの いて トレーナーの トレーナーの	履 成事業について 起源と歴史にこ 役割と任務	が で	歴史的背景
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4	フッション オリエと オリエと トーレー ト び運営	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 シテーション、トは1 -ナーとは2 -ナーの業務1 -ナーの業務2 -ナーの活動と倫理を対し、	表 さらには、「人間性 レー トレーナー トレーナーの いて トレーナーの トレーナーの として 関及 指導者として	履い事業についる 起源と歴史についる 役割と任務 具体的業務内容 求められる倫理	が で	歴史的背景
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5	コットー オナート トト ドル トレ 単し 運じ 一 一 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	ン→レポート→発 する理解を深め、 履修主題 ンテーション、ト は1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの業務2 ナーの活動と倫理 は1 ナーの活動と倫理 は2	表 さらには、「人間性 レー トレーナー 養 トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指導者として 型及 活動にあたっ	履い事業についる 起源と歴史になる 役割と任務 具体的業務内を 求められる倫理	修内容 て、トレーナーの ついて、諸外国の 容	歴史的背景 トレーナーにつ ・方法 1
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5	コート トート トー・ボー・ボード ファー・オナート トート アール アー アー アー アー 第一	ン→レポート→発 する理解を深め、 履修主題 ンテーション、ト は1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの業務2 ナーの活動と倫理 は1 ナーの活動と倫理 は2	表 さらには、「人間性 レー トレーナー トレーナーの トレーナーの トレーナーの 1 指導者として 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	でのリスクとリ	で、トレーナーのついて、諸外国の容マスクマネジメントスクマネジメント	歴史的背景 トレーナーにつ ・方法 1
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5 6 7	コート トート トーク おり おり マンド オナート トート アール アー アー 第一章 一章 と を とり アー・デー できる とり アー・デー アー・デー・デー マー・デー・デー・デー・デー・デー・ マー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 ンテーション、トは1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの活動と倫理 ナーの活動と倫理 は1 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は3 健康管理 1	表 さらには、「人間性 レー トレーナー トレーナーの トレーナーの トレーナーの 1 持導者として 2 活動にあたっ 自己で ストレスへの ストレスへの	でのリスクとリ	がある。 で、トレーナーの ついて、諸外国の 容 里 スクマネジメント スクマネジメント 、ストレスへの文	歴史的背景 トレーナーにつ ・方法 1
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5 6 7	コート トート トーク おり おり マンド オナート トート アール アー アー 第一章 一章 と を とり アー・デー できる とり アー・デー アー・デー・デー マー・デー・デー・デー・デー・デー・ マー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 ンテーション、トは1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの活動と倫理は1 ナーの活動と倫理は1 ナーの活動と倫理は2 ナーの活動と倫理は2 ナーの活動と倫理は2 ・関東管理 1 ・健康管理 2	表 さらには、「人間性 レー トレーナー 養 トレーナーの トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指導者として 理及 活動にあたっ 自ついて ストレスへの フィア	では、感染症	修内容 て、トレーナーの ついて、諸外国の 容 里 スクマネジメント スクマネジメント 、ストレスへの文	歴史的背景 トレーナーにつ ・方法 1
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5 6 7 8	コーカー オナト トトがトびトび 安 安 スとシに オナトト トトがトびトび 安 安 ポのョ対 エとー ーー 二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 ンテーション、トは1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの活動と倫理は1 ナーの活動と倫理は1 ナーの活動と倫理は2 ナーの活動と倫理は2 ナーの活動と倫理は2 ・関東管理 1 ・健康管理 2	表 さらには、「人間性 レー トレーナー トレーナーの トレーナーの トレーナーの トレーナーの 1 1 2 2 2 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	では、 を成事業についる。 を起源と歴史になる。 をとは、 を関と任務。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	修内容 て、トレーナーの ついて、諸外国の 容 里 スクマネジメント スクマネジメント 、ストレスへの対 ほについて いて	歴史的背景 トレーナーにつ - 方法 1 - 方法 2 対処と精神疾患に
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9	コート トト ト・びトびトび 安 安 スと エシに オナート トート ド・びトび 安 安 スと エジー コ対 エとー ーー 二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 シテーション、トは1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの活動と倫理 ナーの活動と倫理 ・ナーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オースタック ・オースター ・オースタ	表 さらには、「人間性 レー トレーナー で トレーナー トレーナーの トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー 各種	極続事業についる。 起源と歴史に会 役割と任務 具体的業務内容 求められる倫理 てのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのといる。 ででのいる。 ででのいる。 でででは、「できた」 でででいる。 できたでは、「できた」 できたでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいできたいできた。 できたいできたいできた。 できたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたい	修内容 て、トレーナーの ついて、諸外国の 容 里 スクマネジメント スクマネジメント 、ストレスへの文 思について	歴史的背景 トレーナーにつ - 方法 1 - 方法 2 対処と精神疾患に
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	コート オナト トトがトびトび 安 安 スとエ エシに リーレ レレ運レ運レ運 全 全 ポのビ ビョ対 エとー ーー 二三二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 ンテーション、トは1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの活動と倫理 ナーの活動と倫理 ・ナーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オーの活動と倫理 ・オースタック ・現まるでは、一次に基づいた連	表 さらには、「人間性 レー トレーナー で トレーナナーの トレーナナーの トレーナナーの トレーナナーの ストレーナー も	極続事業についる。 起源と歴史に会 役割と任務 具体的業務内容 求められる倫理 てのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのリスクとリ でのといる。 ででのいる。 ででのいる。 でででは、「できた」 でででいる。 できたでは、「できた」 できたでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいでは、「できた」 できたいできたいできた。 できたいできたいできた。 できたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたい	修内容 で、トレーナーの ついて、諸外国の 容 里 スクマネジメント スクマネジメント 、ストレスへの対 思について いて におけるEBPの相 や意義、具体手	歴史的背景 トレーナーにつ - 方法 1 - 方法 2 対処と精神疾患に
履修主題・	ディスカ トレーサ い。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	ファーオナトトトが下が安安スとエエクシに リーレレレ運レ運レ運 全全ポのビビラヨ対 エとーー 一賞一賞一賞 とと一連デディ	ン→レポート→発する理解を深め、 履修主題 シテーション、ト は1 ナーとは2 ナーの業務1 ナーの新動と倫理 ナーの活動と倫理 オーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は2 ナーの活動と倫理 は3 に基づいた 運動では、こことでは、ことでは、	表 さらには、「人間性 レー トレーナーの トレーナナーの トレーナナーの トレーナナーの トレーナナーの お	履動業についる。 起源と歴史に会 役割と任務 具体的業務内容 求められる倫理 てのリスクとリ でのリスクとり でのいる。 でのい。 でのいる。 でのいる。 でのい。 での、 での、 での、 での、 での、 での。 での、 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での、 での。 での、 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。	修内容 で、トレーナーの ついて、諸外国の 容 里 スクマネジメント スクマネジメント 、ストレスへの対 思について いて におけるEBPの相 や意義、具体手	歴史的背景 トレーナーにつ 方法 1 方法 2 対処と精神疾患に 概念 去と基本的留意

授業科目	トレーナーの役割(トレ1)	担当教員	濱田光・	土岐政義	アスレティックトレーナー
1XXIII	7 V V V V V V V V V V V V V V V V V V V	実務 経験	有:■	無:□	7,707,177,10
対象年次・学期	1年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	ベーシックトレーニング〔MT1・ PH1〕		担当教員	担当教員 平間 康允				
対象年次・学期	1年・通年 必何		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間		
授業目的	l	ジスタンストレーニング 安全で効果的なトレー			用方法、マミ	ンンジムのマナー		
到達目標		・グの内容を理解し、指・ ・グが安全に効果的にで		になる。				
テキスト・ 参考図書等	ベーシック	ットレ ーニングテキスト						
	評価方法	法 評価割合(%)		評価基準				
	試験	40						
評価方法・	レポート	0						
評価基準	小テスト	30	試験の点数、小テス	ト、授業態度、意	欲、姿勢で判	削断する。		
	提出物	0						
	その他マシンジム	30 、での実技授業として展	盟! ます。マシン・ ⁻	フリーウェイト. カ	ーディオ. 多	8日的スペースを		
履修上の 留意事項	有効に活用い。トレー	用します。マシンジムは -ニングは「基本」が大切	お客様との共有施設 [・] です。この授業を通し	です。広い視野を打 じて、正しい体の動	寺ち、気遣い]かし方、姿勢	を 心 がけて下さ 勢、テクニックを		
		こしょう。トレーナー、 乾していくことが大切で		コーナとして目らか	悮 軋となれる	ようにトレーニ		
履修主題・	0	履修主題		履修内容				
履修内容	1 1 1	ブイダンス、 自重 エクサ ズ	サイ 授業評価につ	授業評価について / トレーニング機器・施設・安全管理				
	2 -	マシントレーニング	iBマシンの使	iBマシンの使用方法と実践:上肢(小テスト実施)				
	3 -	マシントレーニング	iBマシンの使	iBマシンの使用方法と実践:下肢(小テスト実施)				
	4	マシントレーニング	iBマシンの使 スト実施)	iBマシンの使用方法と実践:カーディオ、上下肢復習 (小テスト実施)				
	5	美技試験	エクササイズ・	エクササイズテクニック実技 (上肢・下肢)				
	6 7	コアエクササイズ1、パワ パジション・デッドリフ	ト	デッドリフトについて				
		コアエクササイズ1、パワ ポジション・デッドリフ		フォーム習得				
	8 7	コアエクササイズ1、パワ ポジション・デッドリフ	フー 負荷を加えて ト	負荷を加えてのデッドリフト				
	9 7	コアエクササイズ1、パワ ポジション・デッドリフ 、、バックスクワット		デッドリフト(小テスト実施)、パワーポジション、スクワッ について				
	1 1/1	コアエクササイズ <mark>2</mark> 、バッ スクワット	^{ソク} バックスクワ	 ットについて				
	11 =	コアエクササイズ2、バッスクワット	フォーム習得	フォーム習得				
	1 19 1	コアエクササイズ2、バッ スクワット	ック 負荷を加えて	のバックスクワット	`			
	1 12 1	コアエクササイズ 2 、バッ スクワット	^{ソク} バックスクワ	ット(小テスト実施))			
	14 前	前期復習	筆記試験、実	[技試験に向けた復	習			
	15	美技試験	エクササイズ・	テクニック実技(デ	ッドリフト、	スクワット)		
	16	コアエクササイズ 3 、べこ プレス	─────────────────────────────────────	ジンチプレスについて	C			
	17	コアエクササイズ3、ベン プレス	ンチ フォーム習得	フォーム習得				

18	コアエクササイズ 3 、ベンチ プレス	負荷を加えてのベンチプレス
19	コアエクササイズ 3 、ベンチ プレス	負荷を加えてのベンチプレス (小テスト実施)
20	実技試験	エクササイズテクニック実技(ベンチプレス)
21	補助エクササイズ1	背部のエクササイズ(小テスト実施)
22	補助エクササイズ2	下肢のエクササイズ(小テスト実施)
23	補助エクササイズ3	胸部のエクササイズ(小テスト実施)
24	補助エクササイズ4	肩のエクササイズ(小テスト実施)
25	補助エクササイズ5	上肢のエクササイズ(小テスト実施)
26	補助エクササイズ6	体幹のエクササイズ、自重(小テスト実施)
27	補助エクササイズ7	全体復習
28	補助エクササイズ8	筆記試験、実技試験に向けた復習
29	実技試験	エクササイズテクニック実技、口答試験
30	実技試験	エクササイズテクニック実技、口答試験

授業科目	ベーシックトレーニング(MT1・	担当教員	平間康允
JANTIA	PH1)	実務 経験	有:■ 無:□
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	
授業形態		実務経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	

授業科目	運動生	理学〔卜	レ 1)		担当教員	橋場 晋也			
対象年次・学期	1年・通	通年		必但	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30回	時間数	60時間	
授業目的	身体の	人間の身体の運動がどのようにして成り立つのか、 身体の解剖と機能Iを通じて「人体の構造や仕組み」を、そして、運動生理学を通じて「運動によってとような身体に変化が生じるのか」その現象と仕組みを、学びます。						<u>.</u> 運動によってどの	
到達目標	*日本ス	ボーツ	解を把握するため [「] 協会公認アスレテ できるようにします	イック				巷)』レベルの内容で	
テキスト・ 参考図書等									
	評価		評価割合(%)		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		基準		
	試験		0						
評価方法・	レポート		0	定期記	式験週間の試験	食は実施しませ	٠٨٠٥		
評価基準	小テスト	`	70	各授業	業ごとに行われ	る確認テスト	(小テスト) 、提	出物、その他 (出	
	提出物 20			席率	・授業態度) を	と総合的に評価	します。		
	その他 10								
履修上の 留意事項			関節名などの専門 ゚ットを意識して記				ごさい !		
履修主題・	回		履修主題			1	履修内容		
履修内容	1	ガイタ	^で ンス	学習達成目標、成績評価、諸注意、その他					
	2	AT教	本 関節の構造と	機能	* 可動態 * 下胚腓骨 軟結 * 下胚腓骨 軟結 節、取骨膜節 ② 関節 ③ 関節 ④ 靭帯の	one	関節・軟骨性関節 合:頭蓋間・靭帯 骨結合、線維軟骨	結合: 橈尺骨間	
	3	AT教	本 骨格筋の構造			あの微細構造 その以縮メカー	ヹ゚゙゚゚゚゚		
	4	AT教	本 エネルギー供給	② 骨格筋の収縮メカニズム: ① エネルギー供給機構② 筋線維組成・筋線維のタイプ分類③ 無酸素性作業閾値 (Anaerobic Threshold : AT値)				shold:AT値)	
	5	AT教	本 筋収縮の様式		③ 筋腱剂	宿様式の各エク 复合体・跳躍重		特徴の比較	
	6	AT教	本 筋の形状		② 力一長 ③ 筋の形			ı	
	7	AT教 の関係	本 筋収縮と関節 系	運動	② 二関領 3 テコ	節筋と単関節剤			
	8	AT教	本 神経支配①		② 感覚の ③ 脊髄の ④ 筋紡鍋 ⑤ 伸張原	○種類 ○構造 垂とゴルジ腱器 反射・相反神絲	圣支配		
	9		本 神経支配②		: ① 運動単 ② サイス ③ 運動単	単位と神経支配 で原理 単位と種類			
	10	AT教	本 神経支配③		: ① 全身性	主反射			

		O District VETT
		② 随意運動 ③ 脳の構造と各部位名称
		③ MOの構造と日命位号が ④ 運動プログラム
		⑤ 錐体路系・錐体外路系
		⑥ 小脳・フィードバック
11	最大筋力発揮、神経系のま とめ①	: ① 筋力トレーニングの適応 : ② 記述問題
12	神経系まとめ②	: ① 5択問題
- · -		:①呼吸器の構造
		② 内呼吸と外呼吸 ③ 呼吸商
40	運動と呼吸①	4 酸素摂取量
13	建勤と呼吸し	⑤ AT (anaerobic threshold) 値
		⑥ 酸素分圧 ⑦ 酸素解離曲線
		8 最大酸素摂取量の測定
14	運動と呼吸②	:① 記述問題・5択問題
		: ① 肺循環と全身循環
15	 運動と循環①	② 心拍数 (heart rate : HR) と自律神経 ③ 1回拍出量
		4 心拍出量
		⑤ ヘモグロビン (Hb)
16	運動と循環②	: ①記述問題・5択問題
		: ① ホルモンと機能 ② 運動時の内分泌応答
17	内分泌・ホルモン①	③ 炭水化物代謝・脂質代謝・タンパク質代謝
		④ 副腎皮質ホルモン
	1	⑤ カテコールアミンの作用
18	内分泌ホルモン②	: ①記述問題・5択問題
19	│ 筋疲労 │	: ①記述問題・5択問題
20	姿勢の安定性と重心	: ① 支持基底面・測定方法: ② 立位姿勢の安定性の要因
	 回転運動・慣性モーメント	: ① 定義 ② 慣性モーメント
21		③ 回転力 (トルク)
		④ モーメントアーム
22	回転運動・慣性モーメント ②	: ①記述問題・5択問題
		: ① 運動の法則・ニュートンの法則 ②質量・重量
23	身体運動の力学的基礎①	② 貝里・里里 3 ベクトル量・スカラー量
		④ 運動量
24	身体運動の力学的基礎②	: ① 記述問題・5択問題
25	力学的なパワー、力学的エ ネルギー ①	: ① 定義 ② 仕事・位置エネルギー・運動エネルギー
26	力学的エネルギー②	: ① 記述問題・5択問題
		: ① 歩行のバイオメカニクスと特徴
27	歩行・走行・跳躍・泳動作	② 走行とバイオメカニクスと特徴 ③ 跳躍とバイオメカニクスと特徴
21	・滑動作①	4 泳動作とバイオメカニクスと特徴
		⑤ 滑動作とバイオメカニクスと特徴
		: ① 歩行のバイオメカニクスと特徴 ② 走行とバイオメカニクスと特徴
28	歩行・走行・跳躍・泳動作	② た1]とバイオメカニクスと符取
	・滑動作②	④ 泳動作とバイオメカニクスと特徴
	運動学・運動生理学・バオ	③ 滑動作とバイオメカニクスと特徴
29	メカニクスまとめ①	:① 記述問題
30	運動学・運動生理学・バオ	: ① 5択問題
31	メカニクスまとめ②	
31		

授業科目	 運動生理学(トレ1)	担当教員	橋場晋也		日本スポーツ協会公認アスレティ
JAN116	ZEMITI I (I D I)	実務 経験	有:■	無:□	ックトレーナー、鍼灸師
対象年次・学期	1年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	1	急処置法特別講習〔トレ・健康 1〕			担当教員	小笠原 鷹介				
 対象年次・学期	1年・賃	集中		必側	 多・選択区分	トレー・健康	単位数			
						I / 必修 15 回	時間数	30 時間		
授業目的	救急処証	救急処置について学び、現場にて実践できる。								
到達目標	救急処罰	救急処置法検定試験合格を目標とする。								
テキスト・ 参考図書等	救急処証	置法養原	 붗講習テキスト							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	-	0	= 5 = 4	/=					
計価基準	評価基準 小テスト				試験、その他(受講姿勢、受講態度)を総合的に評価する。					
	提出物		100							
履修上の 留意事項	特にな	L.	200							
履修主題・			履修主題			履修P	内容			
履修内容	1	オリコ	ニンテーション		救急処置法について					
	2	心肺薊	集生法①		胸骨圧迫の方法、注意点。					
						7/4\ /1/8/11/10				
	3	心肺劑	集生法②		人工呼吸の方					
	3	心肺 A E C			心肺蘇生・A	法、注意点。 EDの使用方法、				
	-	AEC			心肺蘇生・A 心肺蘇生・A	i法、注意点。 E D の使用方法、 E D の使用方法・		去・注意点。		
	4	A E C))	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:f	i法、注意点。 E D の使用方法、 E D の使用方法・	気道異物除			
	4 5	AEC AEC 救急班)の使用		心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:1 胸骨圧迫、人 救急現場に進	i法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木)	気道異物除	て。		
	4 5 6	AEC AEC 救急班))の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習②		心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:1 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。	ī法、注意点。 ▲ E Dの使用方法、 ▲ E Dの使用方法・ を々木) 、工呼吸の連続した	気道異物除 ・動きについ ・の引継ぎま	て。		
	4 5 6 7	AEC AEC 救急理 救急理))の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習②		心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:1 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。	「法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 選遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 ・動きについ ・の引継ぎま	て。		
	4 5 6 7 8	AEC 教急野 救急野 止血污))の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習②)	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急現場に進 て。 直接圧迫法、 止血法の実践	「法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 選遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについいの引継ぎま	て。		
	4 5 6 7 8 9	AEC AEC 救急野 救急野 止血活 止血活))の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習② 法 よ よ よ よ な は は は は は は は は は は は は は は は	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	て。		
	4 5 6 7 8 9	A E C 救急野 救急野 止血)の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習② は は はの演習 こを使用した固定 こを使用した固定	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	での流れについ		
	4 5 6 7 8 9 10	A E C)の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習② 法 法の演習 こを使用した固定 こを使用した固定	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 教急現場に遭 て。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して 三角巾を使用	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	での流れについ		
	4 5 6 7 8 9 10 11	AEC AEC 救急野 止血角質 一三演習記) の使用 見場の総合実習② 見場の総合実習② した はの演習 のを使用した固定 のを使用した固定 は験① は験① は験②	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して 三角巾を使用 試験実施	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	での流れについ		

授業科目	救急処置法特別講習〔トレ1・	担当教員	遠藤	貢			
汉杰行口	健康 1〕	実務 経験	有:■		無:□		
対象年次・学期	1年・集中	担当教員	佐藤	隆			
授業形態		実務 経験	有:■		無:□		
		担当教員	秋葉	哲夫	=		
		実務 経験	有:■		無:□		
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務経験					
		担当教員					
		実務経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					

授業科目	見学実	習(共通	1)		担当教員	今井 由美子			
対象年次・学期	1年・賃	 集中		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的	プロの班	見場を見	.学し、今後のトレ	ノーナー	-実習に活かす	0			
到達目標	プロの班	見場を見	学し、今後の目打	旨すべる	き方向性を説明	できる。			
テキスト・ 参考図書等	なし								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・	レポート		0						
評価基準					構姿勢、出席状況を評価基準とする。				
	提出物		100						
履修上の 留意事項	特になし	√ ∘	100						
履修主題・	回		履修主題			履修區	内容		
履修内容	1	プロサ	ッカー見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	2	プロサ	ッカー見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	3	プロサ	ッカー見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	4	プロ野	球見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	5	プロ野	·球見学実習		プロの現場、トレーナーの動きについて見学する。				
	6	プロ野	球見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学 [・]	する。	
	7	プロバ	スケ見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	8	プロバ	スケ見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	9	プロバ	スケ見学実習		プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	10	プロフ	ットサル見学実習	3	プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	11	プロフ	ットサル見学実習	я В	プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	12	プロフ	ットサル見学実習	R 1	プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	13	プロバ	レーボール見学員	習	プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	14	プロバ	レーボール見学員	習	プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	
	15	プロバ	レーボール見学乳	官習	プロの現場、	トレーナーの動きに	こついて見学	する。	

授業科目	見学実習(共通1)	担当教員	土岐政義	<u>.</u>	77. 7 6
1支未行口	兄子笑自(共进门 	実務経験	有 : ■	無:□	アスレティックトレーナー
対象年次・学期	1年・集中	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	身体の角	解剖と様	幾能[トレ1]		担当教員	橋場 晋也		
 対象年次・学期	全1年・	诵年		必備	 多・選択区分	必修	単位数	
授業形態	4.1					30回	時間数	60時間
授業目的	身体の触	人間の身体の運動がどのようにして成り立つのか、 身体の解剖と機能Iを通じて「人体の構造や仕組み」を、そして、運動生理学を通じて「運動によってどの ような身体に変化が生じるのか」その現象と仕組みを、学びます。						運動によってどの
到達目標	*日本ス 80%以 ₋	ポーツ! 上正解で	<mark>協会公認</mark> アスレテ できるようにします	ィック		にて確認テストを 科目検定試験『エ		*************************************
テキスト・ 参考図書等	② AT ③ 入	教本テ 門運動)機能解剖 キスト2:運動器(生理学 理できるA4ファィ			ださい。		
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>	
	試験		0					
評価方法・	レポート	`	0			は実施しません。		
評価基準	小テスト	`	70			る確認テスト (小 [:] 総合的に評価しま		出物、その他 (出
	提出物		20	ım +-	1又未必(又) で	ᄦᆸᄞᆀᆫᄪᅜᇴ	. 9 0	
	その他	より 1	10 節名などの専門	田純+	ナベケ港ウェヴ			
では、 留意事項						になり。 こ工夫してください	v !	
	回		履修主題			履修	内容	
履修主題・ 履修内容	1	ガイタ	゛ンス		: ① 成績の② 学生自③ 姿勢評④ 脊柱の⑤ 教科書	己紹介 価 機能評価 の準備		
	2	解剖覚える	学的用語・専門用 3	語を	四肢の区分) ② 発柱を ③ 体位 ⑤ 動き向な の 骨の名	勢 基本面 どの名称 称]肢・胸郭・胸骨 、手の骨	:理的弯曲 、∫	
	3	別節名と関節の動き			② 関節の③ 各関節の*上肢の関節の*上肢の関節*下肢の関節*体幹部の・胸節の⑤ 関節の	か名称 動きの名称と関節 が、肘関節、前腕が が、膝関節、足関値 関節 骨盤、脊柱の関値 分類と形状による	可動域 部の関節、手 節、足部の関	関節、手指の関
	4	筋肉名	名を覚える①	⑥ PC単語登録: ① 関節名の復習問題② 全身の体表の筋肉名を覚える③ PC単語登録				
	5	上肢の	D筋肉名を覚える			スト② (関節名、 かの各部名称	全身の筋肉名	ś)

		③ ローテーターカフ④ 上肢・前腕の筋肉
		⑤ PC単語登録
		: ① 肩甲骨周辺の骨部位・筋肉名復習 (記述問題)
6	肩甲骨周囲筋・骨盤周囲筋	② 骨盤の各部名称 ③ 下肢の筋肉名を覚える
		(4) PC単語登録
		: ① 確認テスト③ (肩甲骨周辺記述問題)
7	上肢の筋肉まとめ	② 確認テスト④ (上肢・前腕の筋肉) ③ 下肢の筋肉名 (続き)
		④ PC単語登録
8	下肢の筋肉まとめ	: ① 下肢の筋肉まとめ
		② PC単語登録 : ① 確認テスト⑤ (下肢の筋肉)
9	腕神経叢の神経・筋肉名を	② 腕神経叢の神経名
9	覚える	③ 上肢の筋肉の支配神経 ④ PC単語登録
	ᄪᅺᇄᄭᆇᅩᄱᄝᅺᇄᄱ	: ① 腰神経叢・仙骨神経叢の神経名
10	腰神経叢・仙骨神経叢の神 経・筋肉名を覚える	② 下肢の筋肉の支配神経
	上肢・下肢の筋肉神経支配	③ PC単語登録 : ① 確認テスト⑥ (腕神経叢)
11	テスト	② 確認テスト⑦ (腰神経叢・仙骨神経叢)
12	骨名・筋肉名のまとめ	: ① 上肢 (記述問題:提出物①) ② 頭頚部・下肢 (記述問題:提出物②)
		: ① 足関節の構造
		* 足趾・足の変形
13	AT教本 足関節	* アーチ (windlass機構・truss機構) * 足関節の構造と関節名
		* 足関節の靱帯
		: ① 足関節の筋肉と神経と血管
		* 起始停止・神経・作用 * 足関節・足趾の動きと参考可動域
14	AT教本 足関節 	* 主要な血管・知覚神経
		② 確認テスト ③ PC単語登録
		:① 膝関節の構造
45	▲ T	* 膝関節の構造と関節名 * 膝関節の動きと参考可動域
15	AT教本 膝関節 	旅営即の割さと参与り勤攻 * 半月板
		* 膝関節の靭帯
		: ① 膝関節の構造 * 膝関節の靭帯と特徴
		② 膝関節の筋肉と神経・血管
16	AT教本 膝関節②	* 起始停止・神経・作用 * 主要な血管
		④ PC単語登録
		: ① 股関節の構造と機能 * 骨盤部の各部名称 (復習)
17	AT教本 股関節	* 静的アライメント
		* 股関節疾患 : ① 股関節の構造と機能
		・・① 放送即の構造と機能
18	AT教本 股関節	* 股関節周囲筋タイトネステスト復習
		② 確認テスト ③ PC単語登録
		: ① 肩関節の構造
19	AT教本 上肢帯の運動・肩	* 解剖学的関節と機能的関節
	関節の運動 	* 関節ごとの特徴 * 肩甲上腕関節の詳細
		: ① 肩関節の筋肉
		* ローテーターカフ (復習) * 筋肉の起始停止と作用・神経支配と血管
20	AT教本 肩関節	* 肩甲骨と上腕骨をつなぐ筋群
		* 上腕骨と体幹をつなぐ筋群
		* 肩甲骨と体幹をつなぐ筋群

			* 四辺形間隙
			② 確認テスト
			③ PC単語登録
			: ① 肘関節の構造
	21	 AT教本 肘関節	* 骨の各部名称と関節の構造
	21	יוטואונוו ידיאדי	* 静的アライメント (carrying angle)
			* 肘関節の靭帯
			: ① 肘関節の筋肉と神経
			* 上腕・前腕筋群の起始停止・神経・作用 * 血管神経の走行
	22	AT教本 肘関節	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			② 確認テスト
			③ PC単語登録
-			:① 手関節の構造
			* 骨名・関節名の復習
			* 関節の動きの名称と可動域の復習
	23	 AT教本 手関節	* 橈骨手根関節・手根中央関節の構造と特徴
	23		② 手関節・手指の関節の構造と特徴
			* 三角線維軟骨複合体
			* 母指の運動の名称と関節の特徴
-			* 手指の関節の動きと靭帯 : ① 手関節・手の筋肉
			: ① 手関即・手の肋肉 * 前腕筋群(外在筋)と手の筋(内在筋)
			* 起始停止・作用・支配神経
			* 母指の運動
		• - *L	② 手関節・手の筋の血管と神経
	24	AT教本 手関節	* 手根管・Guyon管・橈骨動脈拍動部位
			③ 神経麻痺
			④ 手の良肢位
			⑤ 確認テスト
-			⑥ PC単語登録
			: ① 脊柱の構造と機能
	0.5	 AT教本 脊柱の運動	② 脊柱の弯曲、仙骨傾斜角 ③ 側弯症
	25	AT教本 有性の運動 	③ 関号症 ④ 各椎間の可動域(上位・中位・下位頚椎、胸椎、腰
			椎 古惟间の可勤域(工位:中位:下位共作、胸作、波
-			: ① 頚椎の構造 (骨の各部名称、関節)
	26	AT教本 頚椎の運動	② 頚椎の筋肉
			③ 頚椎の血管と神経 (動脈・静脈、腕神経叢)
			: ① 胸椎の構造 (骨の各部名称、関節、胸郭の構成、肋
	27	 AT教本 胸椎と胸郭の運動	骨)
	21	ハ教学 間にご問邦の建勤	②胸郭部の筋肉
-			③ 胸郭部の血管と神経
			:① 腰椎・骨盤の構造(骨の各部名称、関節、靱帯、椎
	20	 AT教本 腰椎・骨盤の運動	間板) ② 腰椎・骨盤の運動 (各動きの担当する割合)
	28	八球外 波性 月金以建期	③ 腰椎・骨盤の筋肉 (主動作筋)
			④ 腰椎・骨盤の血管と神経
-	29		: ① 記述問題
	30	筋骨格系まとめ	:① 5択問題
	31		
		l .	

授業科目	 身体の解剖と機能I(トレ1)	担当教員	橋場晋也	ļ.	日本スポーツ協会公認アスレティ
JANTH	ZITTO/INTELL (MIDEL(T D T)	実務 経験	有 : ■	無:□	ックトレーナー、鍼灸師
対象年次・学期	全1年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	特別研修(共通1)			担当教員	山岸 舞				
対象年次・学期	1年・集中		必修・選択区分		必修	単位数			
授業形態					授業回数 15回		時間数	30時間	
授業目的	学校生活や社会人として必要な、コミュニケーションスキル向上を目指す。スポーツ指導者について 理解を深める。								
到達目標	社会人としてのコミュニケーションを取ることが出来る。スポーツ指導者とはどのような職業か説明が 出来る。								
テキスト・ 参考図書等									
	評価方法		評価割合(%)	評価基準					
評価方法・ 評価基準	試験		0						
	レポート		0						
	小テスト		0	受講姿	孕勢、受講態度	等を総合的に評価する。			
	提出物		0						
层收 上の	その他		100						
履修上の 留意事項	特になし。								
履修主題・	回	履修主題			履修内容				
履修内容	1	オリエンテーション			特別研修の目的、内容について説明				
	2	挨拶練習			気を付け・礼の仕方、発声練習				
	3	3 感想文記入方法についてスポーツ指導者を目指すにあたり 1		7	記入方法 (5W1H、語尾の統一、構成、見栄え)				
	4			けに	社会人として必要な能力について (コミュニケーション)				
	5	スポーツ指導者を目指す あたり 2			ニング、測定・評価、リハビリテーション、救急処置)				
	6	スポーツ指導者を目指す あたり 3			こ 業界にはどのような 人材が必要 とされているか。				
	7	コミュニケーション能力[上講座 1			コミュニケーンヨンの手法				
	8	上講座			コミュニケーションの実践 (少数に対するもの)				
	9	コミュニケーション能力 上講座 3			コミュニケーションの実践 (多数に対するもの)				
	10	トレーニング・主働筋に [*] いて 1			トレーニング方法 (下半身) 、主働筋の暗記				
	11	いて2		<u> </u>	トレーニンク万法(上手身)、土側肋の暗記 				
	12	全体交流会 1			トレーニングの実践				
	13	全体交流会 2			トレーニングの実践				
	14	まとめ			履修主題4~13のまとめ				
	I		 Z記入		履修主題4~13の感想文の記入 (記入方法の再確認も実施)				

授業科目	 特別研修[共通1]	担当教員	 山岸 舞 	アスレティックトレーナー、鍼灸
	10/03 WITE (7 \ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	実務 経験	有:■ 無:□	師
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		